

白城会通信

創立90周年記念号



目次

思い出のアルバム	
創立九十周年にあたって	1
母校に着任して	2
西高を去るにあたって	3
転退職々員の挨拶	4
新任紹介	5
昭和四十二年度白城会総会報告	6
本年度の進路状況	7
白城会館利用状況	10
思い出の記	11
支部だより	26
声・会員消息・グラウンドの完成	28
会費納入についてのお願い	29
白城会総会のお知らせ	30



↑ 仮校舎にあてられた 景福禪寺

第一節

明治廿七年三月廿二日
 彦摩連常置校寮存案

明治廿七年三月廿二日

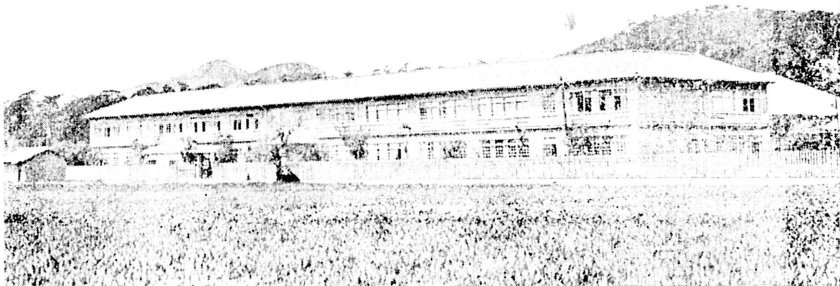
尋常中學校科卒業
 候事

卒業證書

田中仙成

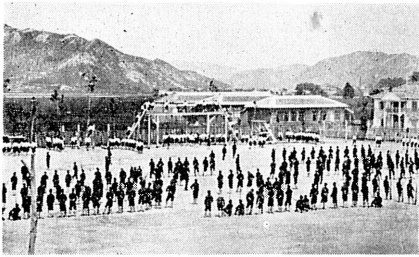


↑ 國府寺校舎全景

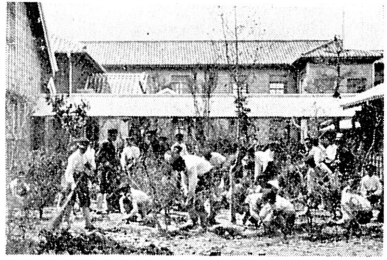


↑ 新築当時の城北校舎（明治42年）

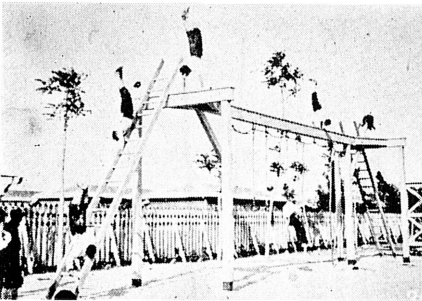
賢實剛健
 成原於
 青野



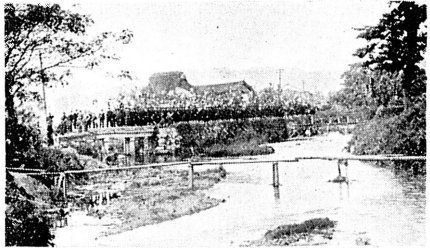
↑ 教練風景



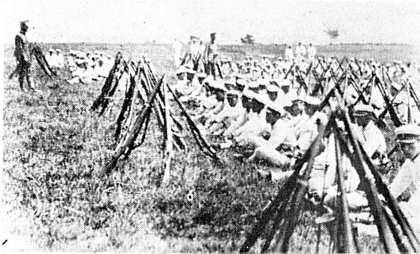
↑ 城北校舎への移植樹作業



↑ あゝ 健男兒！



↑ 城北校舎新築落成記念の提灯行列



↑ 姫中の誇り—青野ヶ原の演習

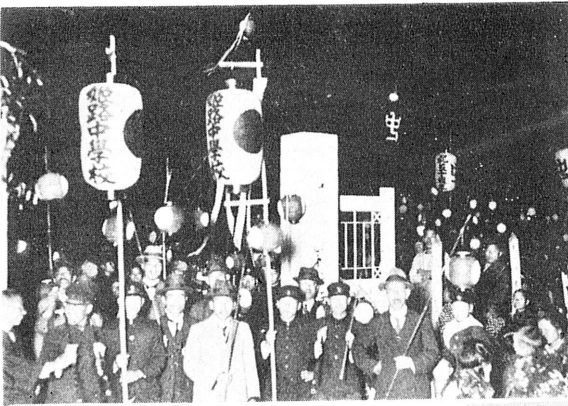


↑ 城北校舎での運動会風景



↑ 青野ヶ原演習

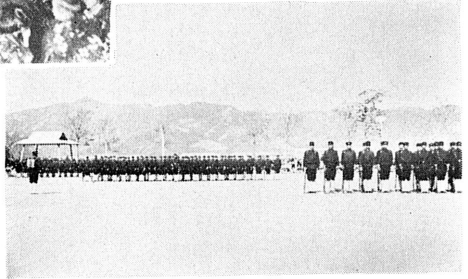
崇徳廣業



↑ 創立五十周年記念提灯行列

(昭和3年11月4日)

6時半学校出発—国府寺旧校舎—総社
—景福禅寺—学校にて解散



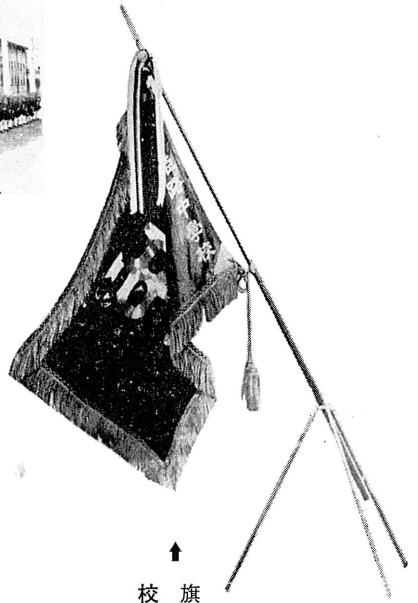
↑ 気を付け！



↑ 最敬礼！



↑ 連合演習



↑ 校旗



創立九十周年にあたって

理事長 空地純一 (24回)

校友諸君お元気ですか。近頃のようにこう天災人災が多くては一寸の油断もありません。幾重にもご自愛を願います。

扱って皆さんご承知の通り今年は丁度わが母校の創立九十周年に当たりますのでいろいろ行事が目論まれつゝありますが、一つ超特急で校誌に目を通して見ましよう。第一に景福寺時代(明治一〇—一八)から県立姫路中学校と改称された所謂京口時代(明治二一—四一)を通じて日本の歴史に名を残された先輩の多いのに感激します。明治四十一年現在の城北地区に建造された広い校舎と環境のよさに世にも優秀な元氣激刺たる中学校として幾年が続けられました。殊に南方目前に聳え立つ白鷺城の雄姿、朝な夕な之を仰ぎ見れば励まされ慰められたその頃のこと何人にも忘れられないようです。昭和に入ってから後、いつとはなく音ならぬ雲行と見る間に支那事変、そして大東亜戦争——もうこの話は止ましましょう。たゞ日本が開闢以来始めて敗戦国の憂き目を経験したのです。道義は敗退し国民はともすれば卑屈となり、青少年までが憂慮すべき様相を示して来たのも事実です。昭和

和廿三年学制の改革が断行され姫中は廃校となりこゝに新制姫路西高等学校が設立されましたが由緒ある姫中の伝統がそのまま継承されたのがせめての慰めであり、同時に両同窓会が一つとなって白城会を結成したことも誠に賢明な策であったと云えます。さればこそ、後輩諸君が戦後の風潮にもめげず、高校生としての姿勢を崩すことがなかったといえましよう。之は当時市民の賞讃的となりまされた。やがて五十年に近い奉公で老朽用をなさなくなつた校舎はとり払われ豪壯な白亜の建物が学園に並び立ち、さらに同窓諸君の絶大な協力による立派な白城会館が完成されたことなど今はすっかり落ちついた彼等にいかばかり大きな喜びと勇氣と希望を与えたことでしょうか。こうして歴史を緋いてゆく内に教えられたことは、創立当時の先輩が勤勉実直、物に動ぜぬ根性を以て後輩の進むべき正しい道を開いておいてくれたこと、代々の後輩が亦よく之を守つて如何なる世相にもめげず毅然として本分を守りぬいて来たこと、加うるに均衡のとれた心身の修練によつて幾多の人物が巣出し夫々国家有用の士となつてそ

の発展に尽すと共に母校の名譽を昂揚し、又昂揚しつゝあるのが現状であるということである。九十年の間に姫中西校を通して卒業生実に一万五千名を突破しました。十年後の一百年の大式典の盛儀が今から思いやられますが、今年も、いわばその前夜祭という意味から何としても之を成功させたいと思ひます。校友各位奮つてご参加下さい。

入会のごあいさつ

20回生代表 山口 徹

このたび、我々四六八名は三年間の高校生生活を終え、新しく白城会の会員に加えていただく事になりました。

この三年間、つらい事も悲しい事もいろいろありました。だが良き師、良き友、良き先輩にめぐまれ、短いながらもほんとうに充実した三年間であったと思います。そして今我々はそれぞれの将来の夢を胸に秘めて新しい人生のスタートを切りました。これからは今までの以上に困難が待ちかまえていふことでしよ。そんな時、我々は三年間に得たものを充分に生かし、また良き先輩たちの適切なアドバイスによつて乗り切つていきたいと思ひます。どうか我々を暖かい目で見守つて下さい。最後にありますが、我々はこの伝統ある白城会の名を汚す事なく、またまことに微力ではありますが、白城会が今後ますます発展して行くよう努力したいと思つています。



母校に着任して

学校長 林 義一 (29回)

世上よく「はからずも」というあいさつのことばを使いますが、私の場合この言葉がビツタリとします。しかし私が本校の卒業生でなかつたら恐らく本校に着任する幸に恵ま

ないことになりません。因縁が深いというところでも、古くさいかも知れませんが、まったくこの感

ご好意が何となく肌を感じられます。前任校の鈴蘭台高等学校は昭和三十八年に生徒急増時の対策として新設された学校で、在任五年間で校地、校舎の整備も一段落し、ヤレヤレという気持でおりましたところで、当然深い愛着を持ってはおりますが、本校への着任でもまた非常に嬉しいことであります。前任校で「子なる学校鈴蘭高に別れて母なる学校姫路西校へ参ります」とあいさつをしました。これが私のいつわらない気持であります。

私が本校を卒業したのは昭和三年で回数で言えば三十九回生ということになります。それから東京高等師範学校に学び、卒業後直ちに恩師、横田宗直校長から丘校に呼んでいただき、十一年間勤務いたしました。その後神戶に十五年間勤務、昭和三十三年に姫路ろう学校の校長として姫路の地に職を奉じ、その後高砂高、鈴蘭台高と転じてこの度本校に三度目、姫路地区には四度目のまみえ

とここで本校に着任して感じましたことは、校舎施設が充実し、とくに白城会館が立派であることと、この中に学ぶ生徒の「良さ」ということであります。この会館は白城会員の皆さんと育友会、県当局との三者の善意の上にてき上ったもので公立高校では他に類を見ないすばらしい施設であります。また生徒諸君の「良さ」ということについても、われわれの在任時代とは非常にちがってきておられるように思います。あの頃は先生に叱られて始めて行儀よくできたという程度でありました。田中敏先生いわゆる「トッサン」はその叱る方の専門家であったのですがまあよく叱られたものです。しかし勉強の方は本校の生徒は昔も今に変わらずよくやっただし、また揃って優秀な頭脳の持主であることには変わりありません。

な喜びであるとともにその責任の重大さに身の引き締る思いがいたします。なにぶん浅学非才の者でありますので先輩の方々、同窓の皆様方の心からのご支援を賜りますようお願いいたします。

母校創立九十周年式典行事

明治十一年創立の母校は、本年九十周年を迎えたので、来る十月十九日(土)午前十時から記念の式典を挙行されることになり、白城会員としてはじめての母校校長である林義一先生の下で目下その準備をすすめてまいります。すでに、記念講演の講師としては、三十七回卒の岡野信夫氏、記念品として複製の卒の杉全直氏の快話も得ておられるとか。白城会も理事会でこの行事に全面的に協力することを了承しているので、会員各位もこの年を記念して、装いを新たに、発展の一路をたどりつつある母校を訪れられるようおすめいたします。なお、母校ではこの年を記念し、創立満百周年を目ざし、充実した校史編集の事業も推進しておられますので、もしお手許に姫中時代あるいは西高になった早々の頃の諸資料(写真、文書、逸話集など)がございましたら、貸与または閲覧などの点で積極的なご協力をお願いします。

(校内理事代表 長谷川隆吉)



西高を去るにあたって

前校長 井内喜久次

私は姫路西高校長として昭和三十八年四月に加古川東高校より赴任いたしました。本年三月末いわゆる停年退職いたしました。十七年間高校長を歴任いたしましたのが最後の五年間を天下の名門「姫中」の校長を勤めましたことは私の上にもない名譽でございます。在任中白城会理事長空地純一先生、役員の方々をはじめ会員各位から私に對して、また母校の教育振興について深く関心をお寄せ下さり、温かい御教示、御支援を賜りましたお蔭で学校の教育内容の充実、施設々備の拡充が大いに進みましたことは私の一生の感激であります。衷心より感謝いたします。

本校の創立は明治十一年でありまして、本年は九十周年に当ります。が、その間に優秀な人材が非常に多数輩出されていまして、長い歴史と輝かしい伝統とは本校の最も貴重な精神的遺産であります。私は平素生徒に接する際、生徒達は将来三・四十年後には国家社会の各分野のリーダーとなる卵であると信じて来ました。二十世紀初頭在學生が成長して人生の活躍の最盛期に達し、事実上国家を背負う運命にあるので、その当時の大いに進歩発展した日本の状態、国際社会、世界の科学の状況を推測し夢にえがいて、その時期に大いに活躍し得る人材となる基礎を作るのが肝要だと思つて来ました。単に学力が優秀だけでなく、すぐれた人間性を持たせること、たくましく身体とゆたかな心を養わせ、更に広く世界的視野に立つて、国際社会に対する理解、協調の精神や奉仕の精神がこの時期に植え付けておけば、生徒の成長と共にこの精神が大きく育つものと確信しております。空地純一先生が熱心に提唱されている国際インテリゲンチークラブを設けたのもこの趣旨によるものであります。以上述べました本校教育を更に推進するために所要の施設々備の拡充を出来るだけ早く完成することに努めて来ました。運動施設では現在工事中の水泳プールの完成で一応運動場の整備が終るのであります。賀集校長の御努力で昭和三十年に校舎全面改築の第一歩がふみだされて以来、竹浪、小島両校長の御尽力で施設の増強進歩がいたしました

がこの特筆すべきは白城会多年の懸案でありました白城会館の建設であります。白城会員各位の多額の贖金によりまして全国的にも稀に見る堂々たる会館の竣工を見ましたのが昭和四十年五月であります。従来県当局の計画にありました図書館、本校校友会が多年要望して来ましたが生徒集會場の建設を組み合わせて三つの施設を飛躍的に増強いたしましたことはほんとうに有難いことであります。白城会館建設以来各卒業年次のクラス会が数多くなりました。平素の教育活動に活用させていただきますに密着になりました。御尽力を賜りました関係各位に深甚の謝意を表します。次に年来姫路西高校に「理科教学」に関する学科を是非設置したいと念願して居りました私が、昭和三十六年文部省から海外教育事情視察のため出張して以来「日本の高校で理科にすぐれた素質を持つ生徒の特別等級を作つて世界の科学技術におくれない措置を講ずべきである」と提唱して来ましたが、昨年夏文部省が各都道府県にこの学科を今年四月から設置するための補助予算を組みましたので、わが意を得たりと期待して居りましたが兵庫県は一ヶ年見送ることにいたしましたので甚だ遺憾であります。この学科に志願する生徒は学区制の制限を受けませんので広い地域から理科教学にすぐれた素質をもち、将来この方面で活躍出来る人材を収容して、西高の発展の基礎を更に強化したいと企画して居ました。従来の卒業生のうちで学区制のため自分の子弟を母校に入學させ得ない悩みを持たれて居るのを解決出来ると思ひます。これに伴い理科施設の増強が必要であります。北校舎の東側の空地に生物・化学・物理・地学の施設を各階に持つ四階建の屋上に天体観測用のドームを備えた建物を作り、更に小規模ながら校外に寄宿寮が必要だと考えます。外国に負けない能力を持った生徒を養成して、日本の科学技術の発展に貢献する人材を大学に送り、義一校長が就任されて居ります。幸いに人格・識見高く、手腕のすぐれた白城会からも県当局に對して強く要望していたまきまして、私の懸案が一日も早く実現させて下さるようお願いいたします。白城会員各位の御健勝と御発展を心から祈念いたします。最後になりましたが、私の退任に際して、白城会より過分の記念品料と錢別を御惠贈いたゞきまして深く感謝して居ります。厚く御礼申し上げます。

転退職々員の挨拶

本年四月一日、多くの若い同窓生を長年教育して下さった先生方が転退職されました。これらの先生方の居られぬ西高に空しさを感ぜられる方もあります。共に厚く感謝の意を表わしたいと思います。幸い先生方の御住所は元のままでありますので、集り時などお出で願いたいものです。

担当学科 着任年月 転任先

三浦 佳文教頭(生物) 昭和三十八年四月 加古川西高校々長に

石坂 豊明先生(英語) 昭和二十三年七月 兵庫高校教頭に

芥田 曉栄先生(家庭) 昭和二十四年四月 姫路短期大学講師に

井上 周藏先生(英語) 昭和二十五年二月 姫路東高校へ

三浦 佳文

突然の命により、姫路西高を去ってから既に二ヶ月となりました。離れてみて一層凡ゆる面で西校のよさをしみじみと感じております。生徒の皆さんは気品あり、人間性豊かに、しかも自信とバイタリティーに富み、立派に勉学とクラブ活動とを両立させておら

れ、又天下の名城を南にのぞみ、施設、設備よくと、のい教育環境においてもすぐれていることをうらやましくさえ感じます。在任五ヶ年かくの如き立派な学校に勤めさせていたゞいた事は誇りとさえ思うと同時に大過なくすこさせていたゞいた事に校長先生を始め諸先生方、白城会員の皆さん、育友会員の方々の御指導御援助の賜ものと厚く感謝しております。

五ヶ年を振り返ってみますと、学校の様子も普通教室の新築、白城会館の竣工、旧講堂の移築、運動場の整備等により面目一新といつてよい程変わりました。その中でも白城会館は他に類のない立派な建築であり、九十年の歴史と伝統に輝く姫路西高校でなければできないものであらうと思われます。そして卒業生と母校を密接につなぐきずなとなるもの信じます。即ちクラス会等の会場としてののった設備、これは卒業生を自然に母校に足をむけさせるものとなること、思います。全くなつかしい嬉しい思い出はつきません。加古川へは電車で通勤致しますので、若い卒業生の方々とはお目にか、る機会も多いことと楽しみにしております。今後ともよろしく

お願い致しますとともに姫路西校、白城会の皆さまの御発展をお祈り致しまして御挨拶と致します。

石坂 豊明

白城会の皆様お元気で居られましようか。私はこのたび神戸の兵庫高等学校に転勤を命ぜられて昭和二十三年七月以来お世話になっていた懐しい母校を去らねばならぬことになりました。敗戦の荒廃の中で日本の再建に希望をかけた、新しい学校制度のもとで姫中の名誉を傷つけまいと先生方や生徒諸君と夢中になつて居る間に二十年たつていました。その間には白城会の皆様にも本当にお世話になりました。空地理事長や校長先生の驥尾について皆様のお蔭で白城会館の建設に参加出来たのも大きな喜びです。学校をかかわつてみて、職員生徒同窓会が一体になって日々励む伝統が確立している西高の良さが身にしみます。兵庫は元の神戸二中、混谷良治郎、平沢金之助先生が校長をしておられ、二中と姫中がよく交歓試合をしたと聞くのもなつかしいです。神戸の高速長田附近におこしのときはどうかお立寄り下さい。まずはご挨拶まで。

芥田 曉栄

姫中の古い佇まいのま、西高に赴任して

以来十九年、思えば長い間御世話になりました。伝統に支えられ、すぐれた自己の天分を存分に駆使して西高のバイオニアたらんと努力する生徒との接触は教師となって日の浅い私を励まし、勇気と希望を与えてくれました。記念祭でのバザー、調理教室や食堂の新設、次女出産、教室で自分の娘を教える面映ゆき、楽しかったこと、辛かったこと、泣いたり笑ったりすることに思い出つきない歲月でした。この間沢山の方々から受けた御芳情の数々深く感謝いたして居ります。何時迄も御世話になりたいと思いつつ、そもいかにぬ日もあろうかと、たま〜知人の招きがあったのを機会に去る決心をいたしました。短大では特殊栄養学、調理々論を担当いたして居りますが西高での経験と反省をもとに新たな気持ちで研究と指導に励みたいと存じます。今後共よろしく御指導御鞭達下さいませ。皆様のご健康と御発展を心から御祈り申し上げます。

井上周蔵

私事 この度東高校へ転任致しました。顧みますればS二十五年若輩の身で、伝統有る西高校に奉職しましてより、諸先生、諸先輩のもと、御指導、御鞭達を頂き、恙なく今日に到りました事を、この機会に厚く御礼申し上げます。西高校を去るに当り、ふと気がつ

けば、当初は弟妹の如く接した生徒との年令差が、既に親子程の隔りとなって、流れた年月の長さを痛感している次第です。浅学な一教師として成果は兎も角、たゞ生徒共々磨かれる覚悟で、勉学に、人格形成にいそしんできた満足感と、これまでの経験を取捨撰択して新しい環境で更に一段の努力をせねばならぬ使命感等で感慨深い昨今でございます。転任したとは云え、何かにつけ切り離して考えられぬ西高校の事でもありますゆえ、白城会の皆様にもこれまで通りの御力添えを頂きました。紙上をかりて心よりお願い申しあげ、御挨拶とさせて頂きます。

《新任紹介》

今春、新たに迎え入れた新任三先生を簡単にご紹介申し上げます。

横林輝美治先生(教頭・生物担当)

相生産業高校より。 大学卒。

内海貞夫先生(英語担当)

姫路東高校より。 大学文学部卒。

木村数代先生(英語担当)

福岡高校より。 大学文学部卒。

白城会謝恩弔慰に関する

内規の設定について

白城会において従来慣例的に行われてきていた謝恩弔慰の在り方を、より具体的に統一されたものにして会員相互の親睦、母校とのつながりを一層親密にするため、理事会にかけて謝恩弔慰に関する内規を新に定め明文化いたしました。この中、とくに会員各位にご承知いただき、ご協力をお願いしたいことは「会員死亡」の場合、本部よりご生前の労を謝し、「冥福を祈って「弔電」を発信することになっておる件でございます。数多い会員のこととして、ご不幸の起った場合にも本部で知らずに過すことも多いことであろうと案じられます。つきましては最寄り、またはお知り合いの同窓の方に万一「ご不幸がございました節には、電話(姫路N-8000)その他(西高校在在校生に託するなど)の方法で早急に本部の庶務係までご連絡をいただきましたたく存じます。本部の係としましては発信もれなどのないよう十分に配慮いたしておりますが、遠隔地であるとかあるいはその他の事情で連絡不十分などのために、発信不能になることを一番に懸念しておりますので何分のご協力をいただきますようお願いいたします。

(本部庶務係西岡記)

昭和白城会總會報告

昭和四十二年度白城会總會は八月十三日(日)母校の白城会館で開催、会する同窓約百五十名、色鮮かな服装で会場に花咲く女子会員の姿も年々増えてきて

昔の本会にみられなかったなごやかな雰囲気をかかもす。理事長・学校長の挨拶会務・会計報告等も終り、尾田竜氏(中・36回卒)の「ヨーロッパ美術紀行」のユーモラスなスピーチで会の空気はますます和らぐ。宴会ともなればあちらこちらに談笑の渦がまき会場には名曲の軽いリズムが流れる。ビールびんの運搬は忙

わしくなる。若手の在学会員には安い会費で飲みほうだいの魅力がたまらない。こんな会なら何時でも来るぞ!と大変な人気。

女子会員はそれぐのグループでビール・ジュースなどを空けよもやま会議に忙しい。

いよゝゝ宴、酣となれば人々の動きも多く会館の広間も手狭となる。場内も蒸し暑い会員お互の話題は必らず在学時

代の想い出ばなし、それも腕白のことに焦点が絞られる。

「鷺山に秋の夜は更けて……」の歌もでる。世話役の方はビールの追加発注に追われる。

いくら忙しくともこんなに盛会であれば忙しければ忙しいほど、この会の意義を、また係としての責務の重大さを感じる。夏の夕なぎの暑気がジリジリと肌を侵む。

「白城会万才!」「姫路中学校、姫路西高校万才!」と万才を唱え一応会を閉じても人人

白城会諸会計の報告

自昭和41. 8. 5	至昭和42. 7. 31
収入総額	1,343,930
支出総額	655,325
残額	688,605

自昭和40. 9. 1	至昭和42. 7. 31
収入総額	2,124,954
支出総額	2,002,232
残額	122,722

自昭和41. 5. 14	至昭和42. 7. 31
収入総額	130,325
支出総額	74,037
残額	56,288

昭和42. 7. 31現	
収入総額	22,006,027
支出総額	21,379,687
残額	626,340

卒)のは会場を去りかねている。なかには、この会が呼び水となりそれぞれグループで二次会場へと足を向けて行く人人。それぞれの想い出を語り、将来を論じながら……。

年毎にふえる新人と、経験豊かな先輩達との交流の場として本会の益々盛大に、かつ、有意義なものになるよう祈念しながら、総会の報告をさせていただきます。

(校内理事・西岡記)

白城会関係の諸会計及び収支は昭和四十二年七月三十一日現在で左記の通りであります。

以上につきましては、会計監査の平野悦三氏・加古二郎氏の監査を受け正当なることを認められています。

別記平野・加古両氏より八月末日付で監査辞退願が提出され、新たに岡本徳治郎氏(中・四十回卒) 竜田謙三氏(中・四十九回

両氏にご依頼いたしました。平野・加古両氏の永年にわたる労を紙面をかりまして厚くお礼申し上げます。なお、平野悦三氏(中・21回卒)は昨年十二月二十一日ご永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(校内理事・西岡記)

昭和四十三年度の進路状況

第二十回生 進路指導係 (58回)

橘 義 康

昭和四十三年度卒業生(第二十回生)の進路状況について進路指導係の一員として、簡単に説明させていただきます。

今春の大学入試は、昭和四十一年度卒業生から始まった「終戦っ子」のベビーブーム第一波・第二波の余波による膨大な浪人集団を加え、現・浪合わせて八十万人の受験生が互いにしのぎを削る史上最高の激烈な受験競争となりました。このことについては、もとより私たちは、かねがね覚悟しており、その対策にも特に慎重を期して、平素の勉学はもとより、受験計画にもきめ細かい配慮を払って努力を重ねてきました。特に一昨年の十九回生は今春の卒業生よりも約百名多い現役数を擁し、しかもすばらしい成果を収められた後だけに、なんとか見劣りしない成績を挙げたいものという苦慮してきた次第です。

幸い結果としては、現役進学希望者四三八名、並びに以前の卒業生合わせて本年度合格者数は、国立大学二二六名、公立大学一一三名、私立大学二八三名、準大学一名、合計六四三名の者がそれぞれ念願かなって希望大学に合格するという輝かしい成果を収め得ました。これも生徒各自が在校時に不断の努力を重ねた結果であることは申すまでもありませんが、同時に陰に陽にご指導ご鞭撻を賜りました母校の諸先生がたのご尽力のため

のであり、かつまた炬中以来「質実剛健」の気風に支えられて、各方面に多大の功績を収められてきた先輩諸賢の輝かしい伝統の力があつたればこそと、進学係の一員として衷心より感謝申し上げる次第です。

進学状況を具体的に申しますと、別表の通りであります。東京大学一三名、京都大学二七名(全国第一七位)、大阪大学二二名(全国第一八位)、神戸大学六五名(全国第三位)、鳥取大学九名(全国第一一位)、岡山大学一〇名とそれぞれ上位を確保しつつ全国にわたって広範囲に進出しております。また、私立大学には関西学院大五五名、慶応大学二三名、早稲田大学二四名、同志社大二〇名、東京女子大九名の大量進出をはじめとして、これまた広範囲にわたって相当数の合格者を送りこむことができました。詳細は別表をご覧ください。

ところで、母校は炬中以来の「躰のきびしい学校」、「勉強のはげしい学校」として世間から高く評価されてきました。母校に奉職する一教師として、世の変遷のいかにかわからず、この校風だけは絶対に崩すことなく、いやがうえにも高めていきたい所存です。今後とも母校の進学成績向上のため、ご教示ご叱正を賜りますようお願いするとともに、新たに大学の場に進みました者に対し

て厳正かつ温情あるご指導ご助言を賜わって、彼らが今後人間として一層の向上発展を遂げるよう見守ってやっていただきたいと、お願いいたします。なお、懸命の努力にもかかわらず今春進学目的を達成できなかった者が、一一名おります。全国各地の予備校で、あるいは家庭において来春をめざして目下努力中ではありますが、彼らの健闘を心から祈っている次第です。

次に就職について触れます。四月当初の時点で、女子一三名、男子二名、計二五名の者がそれぞれ望み通り就職し、目下各産業界において社会人としての真剣な第一歩を踏み出しております。大部分の者が「進学」「進学」と騒いでいるなかで、静かに隊列を離れて行ったこれら生徒は、当時心ないささか淋しいものを感じたことであろうと推察できます。が今や毎日の業務はもとより、余暇を割いての人間修養に多忙な毎日を送っていることと思しますので、先輩諸賢の強く、暖かいお引き立てを伏してお願ひ申し上げます。

なお、これら生徒の就職に際しては、毎年のことながら、各方面の白球会先輩から暖かいご理解とご協力を賜りましたことをここに謹んで厚くお礼申し上げます。

さいごに例年のことながら、今春も本校生の受験に際しては、北は北海道大から南は九州、四国の大学にいたるまで、各大学の先輩が、或いは雨の中を、或いは寒風の中を、受験生のために、宿舍の幹旋から付き添っての

世話や受験上の諸注意に至るまで、また合格後は下宿の世話まで親身も及ばぬお骨折りをしておやっていたいたことは、ただ、感謝の気持ち一杯です。これも姫中時代から受け継がれて、今も西高生の中に生きている友愛精神のあらわれに外なりません。さらに各支部では新入会員の住所氏名を早速知らせるようご連絡下さり、各地で歓迎懇親の催しをしていただいている様子、これまた感激に耐えません。このように先輩・後輩の固い絆、なに結ばれ、西高第二十年卒業生も今後ますます精進努力してご期待に応えるよう願するとともに、白城会並びに会員諸賢の今後一層のご隆盛をお祈りして簡単ながら報告を終えさせていただきます。

昭和43年度進学者内訳一覽

大 学	学部	現 役		卒 業 生		合 計	法大	1	1	1	1	10
		男	女	男	女							
北 大	理類	2		2		2						
	文一				1	1						
東 京 大	文二				1	1						
	文三				1	1						
東 京 大	理一	6		6	3	3						
	理二	1		1								
東 京 大	大 体 育	1		1								1
東 京 大	工 大	1		1								1
お茶の水女大	文教育		1	1								1
名 大	法大				1	1						1
	文工	1		1								1
京 都 大	工 法	3		3								4
	文工	1		1	1	1						1
京 都 大	法 文 工	7	3	7	3	3						27
	医 薬	1		1	1	1						1
大 阪 大	農 工	2		2	1	1						1
	基 工	1	1	1	1	1						1
大 阪 大	文 理 工	1		1								2
	基 工	7		7	3	3						21
神 戸 大	法 文 工	3		3	4	4						1
	薬 文 工	1		1								1
神 戸 大	法 文 工	4		4	1	1						1
	文 工	1	1	2								1
神 戸 大	文 経 営	3		3	2	2						2
	工 農 幼	1	1	2	1	1						1
神 戸 大	工 農 幼	8		8	1	1						1
	中 特	1	1	2								1
奈 良 女	文 理 家	3		3								3
	工 教	1		1								1
鳥 取 大	工 教	6		6	1	1						2
	工 教		1	1								1
東 京 大	木 産 大				1	1						1
岡 山 大	大 理 工						1					1
	工 理 工						6					1
広 島 大	工 理 工							6				1
	教 高						1		1	2		2
徳 島 大	大 工						1					1
	大 教 経						1	1				1
高 崎 大	立 大						1					1
	集 計	79	48	127	39	3	42	169				
茨 城 大	大 理 工						1		1		1	2
	工 医 医						1		1			2
群 馬 大	大 理 工						1		1			1
	医 医						1		1			1
東 京 大	医 外 大							1	1			1
	農 工 大						2	2	2			4
東 京 大	電 通 大						1		1			1
	横 濱 大						1	1	1			1
富 山 大	富 山 大						1	3	4	1		1
	富 山 大						1		1			1
山 梨 大	山 梨 大						1		1	1		1
	山 梨 大									2		2
静 岡 大	静 岡 大						2		2			4
	静 岡 大						2		2			4
名 工 大	名 工 大						7		7	1		8
	名 工 大						5		5	4		9
滋 賀 大	京 教 大						1	5	6			6
	大 阪 大						2	1	3	1		4
大 阪 大	大 教 大						2	2	2			2
	神 戸 大						2	2				2
奈 良 女	奈 良 女							1	1			1
	和 歌 山 大						1		1	1		1
山 口 大	山 口 大						1		1			1
	山 口 大						1		1	1		3
香 川 大	香 川 大						1		1			2
	香 川 大							1	1			2
九 州 工 大	九 州 工 大						1		1			1
	集 計	36	15	51	16	0	15	67				
高 崎 大	高 崎 大							1	1			2
	金 沢 大						1		1			1
東 京 大	金 沢 大								1			1

静岡女大	文家	1	1						4										
	経	3	3																
名古屋市大	医	1	1			1	1		3	法政大	1	1	1						3
	薬					1	1												
岐阜薬大		3	3						3										
三重県大	水産	2	2						2										
	文家	4	4	1			1			明治大	2	2		1	1				4
京都府大	農	4	4						9										
京都府医大		1	1						1	千葉工大	1	1							1
京都市美大						1	1		1	聖心女大					1	1			1
									1	立正大	1	1							1
大阪市大	法商	1	1						3	東京理大					1	3			4
	工	2	2																
大阪府大	学芸	1	1						1	麻生獣医大	1	1							1
大阪女大		1	1	1		1	1		2	東京電機大	1	1							1
神戸外大		2	2						2	東京医大				1					1
		2	2						8	東京女医大					1	1			1
神戸商大	商経	4	4							明治薬大		1	1						1
	管	2	2	2		2	2			武蔵野音大		1	1						1
姫工大		13	13	5		5	5		18	共立女大		1	1						1
和県医大				2		2	2		2	昭和女大		1	1			1	1		1
	文家	2	2						8	東京女体大									1
広島女大	家政	6	6							津田塾大		1	1						1
	文	1	1						1	東京女大		1	1			2	2		3
高知女大	商外	1	1	2		2	2		4	東京女大		7	7		2	2			9
北九州大	教	1	1						1	日本教大		2	2		2	2			4
		1	1						1	立教大					1	1			1
都留文科大		1	1						1	獨協大		1	1						1
公立大集計		34	25	59	16	1	17		76	東海大	1	1	1						2
名古屋市立女短大		1	1						1	中京大	1	1	1						1
京都府大女短		4	4						4	名城大	1	1	2						3
姫路短大		25	25						25	皇学館大				1					1
滋賀県女短		2	2						2	東京写真大	1	1							1
岡山県短大		4	4						4										
尾道短大		1	1						1	同志社大	3	3	1	1	1	2			20
公立短大集計		37	37						37		1	1	8	1	1	8			
										立命館大	1	1	7	7	7	7			12
学習院大	文法	1	1						1	京都薬大		1	1						2
国学院大	文管	1	1			1	1		1	京都産大	1	1							2
	法					1	1												
青山学院大	法					1	1			京大	1	1	1						
	法					1	1			京大	1	1	1						
	法	1	1	2	1	1	1		23	京大									
	法	7	7	7	1	1	1			京大									
	法	3	3	3	1	1	1			京大									
慶応大	法									京大	2	2							6
	法	3	3	2	3	3	3			京大	3	3		1	1				5
	法	2	2	2	3	3	3			京大	4	4		1	1				
	法	2	2	2	2	2	2		24	京大	3	3							
	法	1	1	2	2	2	2			京大	1	1							
	法	1	1	1	1	1	1			京大	1	1							
	法	2	2	2	3	3	3			京大	1	1							
	法	1	1	4	4	4	4			京大	1	1	1	1	2				9
	法	1	1			1	1			京大	2	2							
中央大	法	2	2	1					9	京大	1	1							
	法	1	1							京大	1	1							
	法	1	1							京大	1	1							
	法	1	1							京大	1	1							

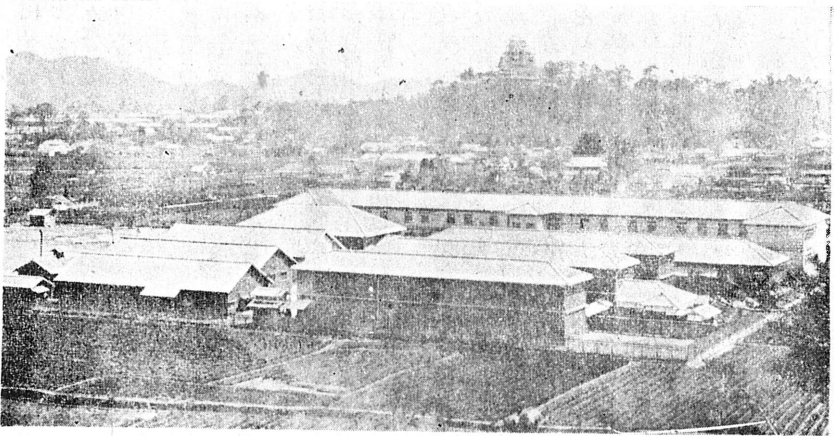
大阪経済大	営	1		1				2	武庫川女大	文		1	1				1
大阪工大		4		4	3		3	7	親和女大	文		2	2				2
大阪医大					1		1	1	ノートルダム清女大	文		1	1				1
大阪薬大			3	3			1	1	4	文		1	1				1
女子美大			1	1				1				1	1				1
関西学院大	法	5	1	6	3	1	4		私立大集計		80	73	153	88	22	110	233
	経	8		8	7		7		私立短大集計		1	17	18		2	2	20
	商	5		5	6		6	55	準大学集計		2	7	9	1	1	2	11
	文		4	4	3		3		国立大		115	63	178	54	3	58	113
	社	3	5	8	1	1	2		公立大		34	62	96	16	1	17	236
	理	1		1			1		私立大		81	90	171	88	24	112	283
甲南大	理	1		1	2		2	3	準大学		2	7	9	1	1	2	11
神戸女薬大			10	10				10	合 計		232	222	454	160	29	189	643
神戸女学院	文		3	3			1	1									
松蔭女大	文		1	1				1									

白城会館利用状況 (自、昭42. 6 至、昭43. 6)

月日	行 事	月日	行 事	月日	行 事
6 22	白城会理事会	9 13	中高入試連絡協議会	2 29	県高校体育研究会総会
6 27	校長協会第3専門委員会	9 17	姫中56回同窓会	3 4	学校出納員会議
6 28	西播県立高校育友会 校長合同協議会	9 29	城北高県教委高校視察	3 24	西高16回(旧3-3)同窓会
7 4	剣道理事会	10 15	西高3回生同窓会	3 27	西高19回(旧3-6)同窓会
7 23	城北高校E.T.A	11 6	西高21回修学旅行反省会	3 28	中高連絡協議会
7 25	数学会	11 8	城北高兵庫県定通教育 振興会	4 10	育友会理事会
7 29	育友会懇談会	11 11	城北高定時制校長会	4 11	進路会議
7 30	姫西19回(旧3-10) 同窓会	11 12	姫中43回同窓会	4 13	旧3年生学年会議
7 31	姫西19回(旧3-1) //	11 23	第368地区第一回イン ターアクト年次大会	4 21	姫中39回生同窓会
8 1	西高19回(旧永井学級) //	11 28	白城会理事会	4 23	英語研究会西播支部
8 2	西高19回(旧3-6)同窓 // 19回(旧永田学級)会	12 2	英語研究会	4 25	能研テスト研究会
8 5	西高19回(旧3-8) //	12 3	西高14回生同窓会	5 9	西播定時制野球顧問会議
8 5	西高19回(旧3-7) //	12 11	城北高E.T.A	5 11	姫中48回同窓会
8 6	西高18回(旧3-7) //	12 13	中高連絡協議会	5 14	高体連剣道部長会 西播数学会
8 6	西高19回(畑知子代) //	12 19	第3学年会	5 19	姫工大姫短大新入生歓迎
8 12	西高19回(旧3-9)同窓会	12 20	教職委員会議	5 24	西播卓球部会
8 13	白城会総会	12 21	教職委員会議	5 29	事務職員大会
8 14	姫中48回生同窓会	12 28	西高19回生(旧永井学級)	5 30	城北高E.T.A
8 15	卓球部O.B.会	1 1	図書部紙魚会集會	6 1	進学指導部会
8 16	西高8回生(旧3-67) 同窓会	1 2	放送部O.B.会	6 7	城北高E.T.A
8 19	姫中58回同窓会	1 3	西高5回同窓会	6 8	姫中29回同窓会
8 20	姫中57回同窓会	1 5	西高19回(旧3-4) 西高16回生同窓会	6 9	姫中33回同窓会
8 26	西高17回(旧橘学級) 同窓会	1 29	城北高E.T.A臨時総会	6 15	第一学年主任会議
8 27	西高17回(旧宮北学級) //	2 1	城北高中学校連絡協議会	6 22	城北E.T.A
9 3	弁論大会	2 6	城北高E.T.A	8 16	西高17回(旧3-1) 同窓会 予定
		2 15	西播高校数学会	8 18	白城会総会 予定

思い出の記

会員寄稿



思い出すままに

七回卒

丸山佐四郎

老生は七回の卒業です。当時は、広い兵庫県に中学校は姫路に唯一つだけで、県立尋常中学校と呼び、旧制高校を高等中学と呼んでいました。中学の頭に地名を付けたのは、日清戦争の勝利により、二億テールの償金（現在の価格に換算すれば二十兆円にもなるでしょう）を取り、財政に余裕が出来たのと、国民の間に教育熱が上がって来たので、神戸其の他に中学が出来たためです。だから老生の時には、生徒は全県下から集まり、但馬からは古橋直君、中村勤君、淡路からは原口亮平君、摂津からは浅井虎夫君、後神万吉君、（丹波からの生徒は記憶ありません）等で、他は播磨からだった様で、三十名は幾らも超えていなかったでしょう。だから一郡から一名位の勘定で（当時兵庫県は三十一郡）当時の世間の教育に対する関心の程度が判りましょう。

入学すると間もなく校長として小森慶助先生が赴任して来られました。若いスマートな元氣旺盛な方で、二三年前に東京高師を優秀なる成績で卒業された方で、こんな若さで中学校長となると云うことは未曾有だったそうです。其の為大分先生の更迭が行はれ、結局落ちついた処、先生方は左の通りとなりました。

教頭、物理、化学担任、岡元輔先生英語担任、小倉鈴之助先生、小野田勇夫先生。前波仲尾先生は国語も担任、一年から五年迄通して老生のクラス受持。

数学担任 野瀬田佳穂先生

漢文担任 津田立本先生

国語担任 春山弟彦先生

習字担任 佐々木弘先生

図画担任 飯田俊良先生

動物植物担任 作間余三郎先生、間もなく

転任されたが後任者の記憶なし

体操担任 竹内正夫先生

外にもあつたかも知れませんが思い出せません。

中学在学中日清戦争があり、連戦連勝で進出したのですから蔚山、平壤、鴨綠江などの戦勝の都度、昼は旗、夜は提灯行列で賑わったものでした。

老生の中学時代は、野球と庭球が、我国へ輸入されて間もない時で、運動の好きな先生の居らるる中学校へは、ぼつ／＼入つて来つたりました。老生は運動が好きでしたから、この両方に手を出し、野球は城南練兵場（城南の池を隔てて広い練兵場がありました）

の東の隅で、袴をはいた和服姿で、体操用の棍棒をバットとして、練習や、クラスの対抗試合をやりました。庭球は、まだ先生方の専用でしたが、面白そうだから側で見ていると、先生からやって見ると薦められ、間もなく先生を負かす様になりました。こういう關係で、五高へ入学してから、野球選手の中へ

加えられ、明治三十年四月三日、福岡で山口

高校と高等学校對抗試合（日本で最初のもの）で左翼手として参加、大勝利を得ました。庭球はずっと選手を続けまして、学校を卒業して就職して後も、引続き健康保持を兼ねて練習をして、六十才位迄に及びました。

明治時代には、同窓会支部（名は違つたかも知れませんが）が東京にありまして二三名の理事を置き本部（中学にありまして）と連絡を取り必要事項や種々の出来事を通信し合い、一ケ年に一度以上適当な時期を見計らい、会

合を開き、食事を共にして、先輩から有益な話を聞き、教養や啓蒙に資したものです。永田秀次郎氏は講話の優秀者でした。ラジオの

始めは録音はなく、総てナマでしたから、或番組が何かの都合により空白となつた時はNHKは、必ず同氏に依頼して、其の空白を講話で補つたもので、NHKの至宝でした。時期は忘れましたが、中野区に炬中卒業生で東京へ進学して居る人のために寮が出来て居りました。旧藩主の酒井伯爵の援助によるものと聞きました。景福寺時代の卒業生で、今は

八幡製鉄の前身、日本製鉄の技師長だった工藤服部漸氏が寮長で、九期卒業の工學士加護谷裕太郎氏、結城文學士（卒業期思い出せざ）が実務担当者として十五乃至二十名位の寮生の面倒を見て居りまして、老生も二三度

お邪魔したことがあります。

クラスメートの開発展也君は今の青山ゴルフ場の坂の西側の太田村でしたが、三里余（十二km余）の遠路をわらじばきで、一日も遅刻欠席なく五年間を通学し通したことは、特筆すべきだと思います。始終精神を緊張させて居つたのと通学の運動が健康を保持したのだと思われまふ。こんな健脚で併も岡山医専を出て開業して地方でも尊敬されていたのだから、もっと長生して貰えば老生の最後の茶呑み友達として互に慰め会えたものを遺憾に堪えませんが、今は令息が跡を継いで居る様です。

最後に老生の記憶にある卒業者を左に、三回卒業塚本清治氏若槻内閣の内閣書記官長より親任官として関東軍長官となられました。

四回卒業真鳴倫太郎氏卒業試験で平均九十何点かを取り中学創設以来の秀才と称せられ、それにホレコミ神戸の隣守王直木氏に養子として迎えられ、東大工學部土木科を銀時計組にて卒業、関東大震災時の復興院總裁より満州国参議（日本の大臣）となり同地にて逝去。

五回卒業春山作樹文傳（春山弟彦先生息）東京帝大教授として有望視されましたが若くして逝去。

同 森十司医博 岡山医専卒、姫路にて開業、

経済に余裕が出来て後、四十才以後より再勉学、終に学位を獲られたが戦禍類焼のショックにより病を得て間もなく逝去。

同 榎並充造 神戸にて皮革会社社長より商工会議会頭として活躍。

六回卒業水田秀治郎氏警保局長、拓務大臣を経て陸軍の要請により砂田重政氏と共に寺内総司令官の率ゆる南方軍の軍政顧問としてシंगाポール(当時昭南市と呼ぶ)へ、

赴任、病を得て帰国間もなく逝去(出発前健康検査を受け大丈夫と保証されたのですが、南方の風土がたたったのでしよう。遺憾至極です)只一人の令息亮一氏は自民党の少壮有力者として活躍中。

六回卒業山田在医博 満鉄病院長、長崎医科大学長須磨病院長、同西沢行蔵医博陸軍軍医総監となり、退官後日本医科大学教授。

七回卒業池田嘉吉氏御木本真珠店支配人として終始一貫世界に我国真珠の真価を知らしむ。

同 原口亮平氏 東京高商卒業後、神戸商高教授、前後は神戸商科大学長。生涯只一校に勤務し学長となったのは珍らしい。

三回卒業渥美育郎氏東京高商卒業後大阪商船会社に入り重役となり日本海運の為め活躍。



思い出のかずかず

八回卒

森川智徳

一 私は県立姫中第八回(明治三十年三月)の卒業で、最近(昭和四十年度)の「白城会名簿」によれば、同期の卒業者は、生残者が、小林甫君と私との二名で、物故者が三十七名、合計三十九名となって居るが、小林甫君はその後昭和四十一年十月三日に逝去されたので、生残者は私一人となり、言いようのないさみしさを覚えて居る。尤も私等よりも先輩で、今尚生きながらえて居られる方々は、極めて少数であるが、どうかそれ等の方々

が、このたびの記念号を大いに賑わして下さることを、切に望みたい。

二 私たちが母校に学んだのは、七十余年前のことであり、その頃の母校は姫路市の京口にあった。実はその当時、兵庫県には、神戸(御影)に県立の師範学校があり、県立の中学校は姫路だけにしか無かったので、母校は「兵庫尋常中学校」と名付けられて居た。

ところが私たちが四年生になった時か、五年生になった時に、始めて龍野に県立の中学校が出来て、それからは母校が「兵庫県姫路尋常中学校」と呼ばれるようになった。

私の郷里(生家)は、今日では姫路市に編入されて居るが、その頃は「飾西郡(後に飾東郡と合併されて飾磨郡となった)手柄村亀山」だったので、その亀山から「飾磨街道」を南(延末と豆腐町の中間)まで、南(のうねんのみずえととみまち)から「馬車道」を斜、右に京口まで、合計四キロ(二里)の道を、降っても照っても、毎日往復した。

上に述べたように、当時県立の中学校は姫路だけにしか無かったので、播州全体は言うまでもなく、但馬や淡路からも入学して居たので、母校には立派な寄宿舎が用意されて居た。

三 私は後に京都の三高を経て、東大の文学部

(その頃は東京帝国大学文科大学といういかめしい名前であった)へ進んだが、当時母校の同窓会は已に出来て居て、その本部は東京にあり、姫中第四回卒業の辻善之助さんが「主任理事」として毎年二、三回「校友会会報」を発行して居られ、私も東京に在学した間は、その編集事務を手伝った。

学生生活を終ると、私は京都西本願寺の仏教大学(現在の龍谷大学の前身)に勤務し、後に大正八年から三年間、哲学研究のため、英仏独三カ国に留学した。丁度その大正十一年に仏教大学が昇格して、旧大学令による龍谷大学となったのであるが、私はそれから昭和四年まで、龍谷大学で教授たることを続けた。

ところが昭和四年によぎない事情で、私は龍谷大学を退職し、その翌年東京へ移り、現住所に居を定めた。

その頃、私の住居に程近い所に「播州寮」という学生寮があって、母校同窓会の大先輩、景福寺時代出身の三上参次さんや服部漸さんなどが世話をして居られ、私にも少々手伝えよとの事で、偶々寮監をして居られた野瀬田佳稻先生(曾て母校で私等数学の先生であり、後に加東郡小野に新設された県立中学校の校長となられた)が歿くなられたので、その後任に、その数年前に東大を卒業された

結城令聞さん(姫中第三十二回卒、後に東大の教授となり、現在は京都西本願寺の伝道院の院長である)を煩わした。この播州寮は不幸にしてその後長くは続かなかつたが、わが母校の出身者で、この寮で生活された方が、相当数あるであろうかと思う。

四

さてもこのようなことを、やたらに書き付けると、この原稿が何十枚にもなるのでそれがあるであろうから、このあたりで、一応打ち切ることにしたい。

私はその後引続いて、戦争の期間も東京に居住したが、京都の龍谷大学では、戦争が終了すると、学長公選の規程を設け、昭和二十一年の春、私が当選したというので、昭和二十四年から数えて十七年という長い年月を距て、私は学長の任に就いた。

それから第一期は四年、第二期以後は二年という事で、結局五選されて、昭和三十三年の春まで、十二年間学長の地位に留まったのであるが、そこで私は学長を罷めて、布哇にある西本願寺教団の開教総長に選任され、二期六年つとめて、昭和三十九年の春、帰朝し、それ以来東京居住を続けて居る。

私の東京での住所は、「杉並区

」(旧称は杉並区

番地)であり、中央線「西荻窪駅」下車、線路の北側を大体線路に沿うて西へ徒歩五分の距離(電話は 局一 番)

にありますから、この方面へ御序の節には御立寄り下されば、まことにありがとう存じます。

尚、又私は大変な高齢に達しては居ますが、幸に一通りの健康を享けて居り、本年の夏も姫路での白城会の総会に、若し支障が無ければ、末席を漬したいと思つて居ますから、その場合には、どうかよろしく御願ひ申し上げます。





回想録

十三回卒 栗田 肅 夫

私の姫中生時代

明治三十年四月—三十五年三月

私の母校職員時代

明治三十九年九月—大正十四年四月

近代的な校舎と質素な服装

京口に在った校舎は南町に在った裁判所と同型で当時の姫路に珍らしい宏壮な建物であった。広い校庭の向うの本館に建て、二階が広い玄關づきで建っている。門前を通りがかりの田舎の婆さんが、本願寺さんと間違えて時々手を合わせて押んで行くこともある。その前庭では、先生方がよく庭球をして放課後の一刻を楽しんでいた。鉄柵の校門を這入ると左手に門衛所があった。

生徒の服装は、冬は黒、夏は白の小倉服に同色の釦が着いている。脚には兵士と同じゲートルをつけている。教科書は白い風呂敷に包んで左手に抱えて行く。弁当は柳行李、それで毎月一回、不意に行軍が行なわれると、弁当を白風呂敷に包んで、斜に肩にかけて出掛ける。家に帰れば、外出には必ず袴を着

け、正帽をかぶって行かねばならない。

通学には未だバスや電車が無かったので、印南郡辺から二時間、一時間もかゝって通学する者は、未だほの暗い内に家を出て、草鞋ばきで通学して、市川橋畔の茶店に靴を預けて置いて、其所で靴に履き替えて登校したものである。自転車は未だ流行していない。「チリリンリン」と出て来るは、自転車乗りの時間借り」と云う唄が流行し出したのは数年後で、其頃になつても勿論通学用には制限があった。

授業料は金六十銭で、三年になつた時金巻円に上がった。其頃は貳銭で饅頭が十も買え秋の惣社祭に小遣として五銭も貰うと大喜びだった。

教科は大差ないが、教科書は一定して居なかつたので、英語など二年でナシヨナルリダーの四巻を使い、英文法もネスフィールドの邦訳したのを使って居た。毎年五、六名落第生がクラス毎にあつたので、六十名程の同級生の半分が六年生であつた。でも学力は普

通以上の連中だから殆んどが目的通り進学し、上級学校に行かない者は、検定を受けて教員となり小学校長となつて居る。

剣道は有志の者だけが放課後にやつて居たが柔道は無かつた。

授業以外の行事としては月一回の行軍、年一回の夜行軍、演習、修学旅行などがあつた。行軍は大抵不意に行なわれた。一二年、三四年混合して二ヶ中隊とし、五年生は中隊長小隊長分隊長等幹部として引率者になつた。そして「道は六百八十里」と軍歌を歌いながら郊外を行つたり、川を膝迄つかつて渡渉したり、市川橋から駆足で学校迄帰つたり、相当な強行軍であつた。

夜行軍は夕食をすまして、夕方から行なわれたが四五里の道を行軍し夜明け前に帰校したが、帰り道では居眠りしながら歩いて居た事もあつた。演習は上級生は武装して、兵隊の秋季演習と同じで、東西兩軍に分かれ、夕方に出發して、山麓や川原で夜営し、歩哨を立てたり斥候を出して敵情を探ぐつたりして、翌朝河原の西岸に対向して戦い、終つて河原で大隊長の体操教師から批評があつて帰校した。

修学旅行は、秋季に行なわれ、一年は一泊二日、二年は二泊三日、三年は三泊四日、四年は四泊五日、五年は五泊六日で、大体同じ

コース。

計画は先生がたて生徒に説明し金銭支払いは先生がするが、生徒は合意で数班に分かれ説明を要する所では一緒になるが普通班毎にまとまって行けばよい。先発隊後発隊が毎日交代して、先発隊は一足早く目的地に着き宿舍の部屋割をきめて待つ。翌日後発隊は一同の出発した跡を片付け掃除をして出発するだから宿屋では姫中生の規律ある行動に感銘して感謝状が学校へよく送られた由である。

校長、入学した時は札幌農大出の岡元輔先生で温厚な君子のような先生であったが、その前は鹿児島の小森慶助先生で、俊敏な小柄の先生で家には二三人の書生を養って居られた。そして程なく県の視学官に抜擢された。

三年になった時永井道明先生が来られたが、がっちりした軀軀の洗動家で、体操時間にはよく監督に出られ、行軍の時など高い梁木の上に立って全体によく号令をかけられた。私の卒業後、姫中が体操の模範校と認められ、文部省から撮影に来たとか。間もなく校長は体操見学に歐洲へ派遣され、先生によって瑞典体操が日本に取り入れられ全国に行なわれるに至った。

漢文の津田立木、地理の小野田勇夫、図画の飯田俊良の三先生は勤続二十年になられ校友会から金時計をおくって表彰した。三田先

生である。

運動と文学、京口校舎には運動場が狭かったので、器械体操が盛んで中には大車輪を七八回もやる者も居た。庭球は先生方だけだったが、野球は全国的にも早い方で五回生の頃から行なわれ城南練兵場へ行って練習した。神戸から仕合に来て城北練兵場で戦ったこともある。当時の名捕手黒坂克次郎君は神谷に健在である。明治四十二年城北の新校舎に移転してからは広い運動場や立派な道場が出来たので、野球の外に庭球も盛んとなり、相撲の土俵も出来、剣道柔道は選択必修となった。夏には飾磨沖で観海流の水泳師範を招いて練習が行なわれ五里の遠泳に合格する者もあり大抵は五十丁泳げた。

運動の方ばかりでなく、文学方面でも生徒の活動は盛んであった。四年の時、五年の松下憂々、秋元杜若、前田秀幸君と共に、郵便局の尾崎柿村、姫路銀行の梶子節君等と白鷺会を作って毎月一回、寺や社務所を借りて俳句の運座会を催した。憂々は正岡子規が自ら撰句する東京の日本人と云う新聞の俳欄に載った事も二回程あった。私も高井屋角の雅号で関西文学へ再々投稿した。

五年の時に高井俊葉の名で中学世界に投稿した抒情文「あはれ浜千鳥」が一等に当選して塩井雨江、大町桂月に激賞されたことがあ

る。同じ頃校内で懸賞文を募集されたが、私の「あはれ故郷」と云う抒情文が優等賞に当選、国語主任の遠藤先生から激賞され、玄関前で他の入賞者三名と先生方と記念撮影をした時の喜びは忘れられない。当時市内の東部に共究会、船場に鷲陽団と云う共に会員數十名程の生徒の会があって、毎月文集を発行したり談話会討論会を開いたり、野球試合をやったりして居た成果であろう。

先生と生徒の間柄。学校の方針は質実剛健に指導して居たが、一面先生と生徒の間柄は親密なものがあつた。私達は数名でよく先生方の私宅を訪問したが、別人のように優しく私達に接していた。日曜には先生を誘ってハイキングに出かけたり、会合の席に先生をお招きすると、喜んで来て話をされた。

それにつけても思い出されるのは、三年の修学旅行で、京都を立ち比叡山を越え更に本峠峠を越えて宇治に行く十五里程の難行程で、同行の小野先生がすっかり疲れて、峠の登り口で「私はもう死ぬ」と弱音を吐いて平駄張って仕舞われた時、側に居た数名で、先生の荷物を持つやら両脇から抱え込むように先生を抱いて峠を登った。宇治へ下ると、数名の先発隊が先生を案じて提灯持って迎えに来て居たので、それに引継いで宿舍へ連れて行ったのは親子のような親しみが溢れて居て先生は泣いて居られた。



卒業旅行の思い出

二十八回卒 高橋 秀吉

私ら二八回生の一番深い印象とすれば、何としても卒業前の長途宿泊修学旅行だろう。今とちがって、選ばれたコースは先生方が協議して決まったが、当校はじめての和歌山廻りと発表にはみなとび上って喜び、その日お待ち遠しく、毎日旅行のうわさを話した。

何がさて東京はおるか、伊勢へも行っていない者が多かったから無理もない。特に姫中最初のコースで、何だか型破りと誇らしく感じ、大いに待ちあぐんだのであった。

かくして大正五年十一月七日の午前三時、姫路駅集合出発から始まった。車中では平素から解放された喜びと、新コースへの首途に一しきり騒がしく、まるで小学生のようなはしゃぎであった。

大津、石山を経て、念願の伊勢では両大神宮に参って、二見浦で第一夜。奈良ではまた一泊。その間、極めて順調に、日本の歴史と美術の実体を目にした感激と驚きをくり返

し、更に三日目は法隆寺、畷傍、橿原を廻るのだが残念にも、雨が降り、にわか造りの僧兵の姿そのままに、元氣も挫けず行程を橿原まで進めるうち歩みは雨でややくおくれたが、一部の連中は、もうとても山越しに吉野へは歩けぬと弱音を吐く。

今回の旅行は、歴史の本沢先生の発案で、多武峰からは直行で一氣に吉野へ歩くという変わった行き方はみな承知していたものゝ、この雨がひどくてはへこたれの出るのも仕方なく、汽車で廻らせ、本隊は予定通り徒歩直行と決まり、各隊夫々にわかれて出発した。

これからの思いがけない難行で、おそらく各自一生忘れえぬ想出となり、二八回最大の印象ともなったわけである。私も徒歩隊に加

わり、この記録は半紙五十枚、今も保存し、ハッキリと覚えているほど強い感銘がある。

さて、雨で目指す多武峰は見えない。道も雨の坂道では歩みもおくれる。霧も深く、樹々よく茂り、一行の列も乱れ、互に元氣づ

けつゝ登るだけである。いつしかものも言わなくなり、疲れるばかり。何度も切株を見つけては腰かけて元氣が戻ると歩み、また休む。

そのうち上の方から「オーイ、着いたぞ」との大声に、ヤレヤレと立ちあがった。一氣に上ると道が二手になっている。「どっちだア」「こっちだア」と叫んでくれたので、かけ登ると大きな門があった。

もう心配はない。下へ大きく申し送り、返事を聞いてから歩を進める。談山神社の紅葉の美しさを期待したのも、それどころでない。宮の荘厳さも、疲れと行先の不安で、今は一刻も早く急がねば初冬の日の短かさに加えて雨ふりではなおさら暮れも早いだろう。

大きな山の中、一きわシーンとして、雨の滴の音のみがさみしさを加える。拝礼もそこに、まだこれから何里とも知れぬ山道を吉野までと思えば、さすがに元氣ばる徒歩組も心細く、たと氣をあせるばかり、茶店で柿やミカンを買いたいこみ、大いそぎで出発。

もうみなはバラバラで、私たちはおくれた方らしい。案内人がボンヤリ立って「下から先生らしい声で道はどっちだアと聞かれたので大声で呼んだが、まだ上ってこられぬ」という。一齊に高取先生ツと叫んでみた。どこからか、かすかに「オーイ」と聞える。き

と来られると安心したが、もうとても待てぬ。早く下りると本沢先生の命令で下りはじめた。

何がさて大杉の密林では、一きわ暗さもひどく、滑る道では歩みも危い。私の足早のくせで、先頭から次第に離れ、先行隊に追いつこうとドンドン走つた。だがいくら行っても会わぬ。道は長く、落葉枯枝が引っかけり、ジメジメと気味わるくなってくる。

目前につつ立つ何か大入道の姿にハツと立ちすくみ、ワナワナふるえたが、チッと目をつぶって大きく息を吸いこみ、グッと腹をすえてから夢中でかけると、それは大きな木が一本離れて立っているのだった。次は墓場の横だ、迷信だと思いつゝも、若い女が髪を乱してスウィーツと出てきたらと、あらぬ怖気を自分で叱りつゝ通りぬける。まだ先隊に追いつけぬのは、もしや道ちがいではないか。余計な企てで無謀だったと、今更にわが身を責めたり、口惜しがったがもう絶対絶命である。

もう一度気をとりにおし、またかけ出した。夜となったが、まだ雨もやまず、三本の岐道に出くわした。立石があつても、字が読めぬ。だが何やらかぶせてある。見ると合羽の破れだった。きつと先隊が残してくれたと安心し、靴の跡も闇では判らず、拾った新し

い紙片にも何が書いてあるかも読めない。仕方なくグルグルと辺りを歩き廻っていると、やがて後の組が灯をつけた案内人を先にしてドヤドヤ。右の道だとわかりまた歩き出す。

くぼみや、転び石につまずいてヒョロつく。合羽も破れて服もズブぬれ、靴にも水がしみこんでジャブジャブという気味わるさ。落葉に滑って尻もちつくのもある。しかし友情はとても厚く、互にいましめ、扶けあってリレー式に次々と申し送ったり、手をつなぎ肩を組み、抱え合うようにして、一步でも吉野へ、吉野へと心をはせつゝの歩みは実に美しい情景であった。

やっと谷間を下り、田畑も見えたから、だれとなく大声で歌い出した。しかし道は行けども行けども前途遙か、まだ一里はある。グングン歩いてまた一人になり、町となった道を進むと、ある茶店で七、八人が食事している。とうとう追いついた。私も茶を一杯いもらって元気づけて共に出発した。

高取先生のことを判らぬので、一行に報じると一時はおどろいたが、たしかに宮の下で声を聞いたというのがあって、大丈夫と安心して、互に困難な道を下りえたことを珍談、奇談百出を交わしつゝ、つかれも忘れて、特に三本道のことや、ある友が飢えて倒れそうになったのを、みなで介抱しつゝ歩いた等は

実にうるわしく、つい涙が出てしまった。いつしか吉野川を渡りいよいよ山にとりつくと、上からオーイオーイと呼ぶ声。チラチラと灯をゆらめかして汽車組が迎えてくれた。かけ上ると、迎える友も「よくまあ無事で」とまるで十年も会わなかったように、抱きあげ、引っぱってくれ、宿への途中でも慰めるやら、いたわってくれた。

高取先生も遂に一番あとから無事に着かれたのだが、それまでのみなの不安げに待っていたのが、先生の顔を見るや、庭までおりてみなが取りすがるように囲んで、心からの萬歳を三唱したこと。ぬれた服を大火鉢であぶって乾したこと。食後高取先生から山の中の単独行の苦勞話に大いに感激し、先生が丁寧に「みなに心配かけた」とのあいさつには今更ながらこの先生の高徳を慕い仰ぎその人柄に感銘は深く、終生師弟の親愛と、徳を仰ぐ大きな動機となったこと。以後和歌山からは日和もよく、大阪経由で五日間の行程を終り、駅前で解散等々の一切はとても書きおえられず、本稿ではたゞ最高潮であり旅中空前の珍事を主として書きぬいただけである。





仰げば尊し

三十一回卒 竹内英夫

混合良次郎先生

新入生にとって校長先生ははるかに遠い偉い方であった。式日の講堂に全員静かに待つ中を、おもむろに床を鳴らしてコッソコッソと入場された黒い背広のお婆や、さびを帯びたお声でゆっくりと述べられた式辞などが印象に残っている。道を歩かれる時もちろん直立正面向きコッソコッソの調子であった。

野村浩一先生

和歌山中学から転任してこられた野村校長は泥谷校長とはあまりにも対照的であった。野球校長の一語につきる。試合をする以上は勝たねばならない。まことに徹底した指導であった。誰彼となく気軽に話しかけられたし、西洋史の授業の際などローマ文化爛熟期の浴場風俗の一コマなどで若者の血をわかすというユーモリストでもあった。後年姫中から立派な野球選手があらわれたのもっともである。

脇豊蔵先生(英語)

小柄の先生で歩調がすこぶる早く、泥谷校長を先導して講堂へ入られる足音がカタカタカタとまことに急テンポ。時々英語の指導を受けたが「millionaire」という言葉があったね」と、単語 million の記憶に Chain Method をすすめられたあたり、今なお笑みを含んで諄々と説かれたお顔が目にかぶ。

栗田肅夫先生(地理歴史)

入学から卒業まで学年主任として栗田先生の指導を受けた事は三十一回生の何にもまさるよるこびである。すでに六六才になったOBが、今なお毎年の同窓会に先生を囲んで思いつきを語りご指導を受けているのは果報身にあまる思いがする。先生にからむ思い出はあまりにも多く、カットせねば紙面がつかまる。

「鷲山に秋の夜は更けて……」私達が入学の年、姫路商業との庭球試合応援のため先生がこれを作詞してくださった。校庭にたつ歌碑とともに永久に同窓生の心を温め、またその心を一つに結ぶものである。

卒業旅行の一こまー高野山下山の途、旅のつかれにのどかわきはげしく、立ちならぶ茶店のところてんがしきりに目につく、しかし栗田先生があとから降りて来られるのが見える。道ばたでの買い喰いは叱られるかもしれない。しかし、ついに遠慮がちに学友数名と一茶店へ。ところがその茶店へ栗田先生があとから入ってこられた。先生はいっしょに、ところてんを召し上った上、何もおっしゃらずに生徒の勘定までまかせてさっと出て行かれた。先生はこわくないということが心にやきついたとは早原栄一君の述懐。

卒業後幾十年、学友の訃音を先生に伝えた時「遺族の方はどうしているか。三十一回生は互に助け合いを緊密にはかっているか」とのお言葉。はっと胸をつかれる思いであった。

ここで当時の学校生活の一端にふれておこう。夏は白、冬は黒の小倉服にまがり中微章の帽子、黒靴にボタン付白グートル。軍隊のお古を軍艦靴と愛称してはくのが一つのバンカラ。教科書や学用品は白のふろしきに包んで携帯、卒業旅行にはじめて鞆を買ってよるこんだ者も多いはず。和服で外出の際には袴と制帽着用、ちよっとポストへハガキ入れにも同様。学校からの距離が一里半か二里でなければ自転車通学は許されず、長途の徒歩通

学で自ずから健脚がきたえられた次第。

年に一度のマラソンレースは山陽路は加古川まで、生野路は当時の神崎郡山田まで。法華山へ行軍、書写山へ登山、夢前川原へ雪合戦あるいは京都へ御大典あとの御所拝観、神戸へ軍艦金剛の拝観など先生との思い出はつづく。

阿部良平先生（博物）

学問に対する情熱、実験観察の尊重を入学当初からたたき込まれた思い。大きな頭をふりながら口角泡をとばして説き進められ、時にとび出すユーモアや人生論には今なお脳裏をはなれぬものが多く、ダーウィンやメンデルの化身かと尊敬していた。多年にわたるご研究で本県や、わが国博物学界につくされた功績はまことに大きいものがある。先生の亡くなられる前日その枕辺に侍った時、親しく名を呼んで下さって「よく来てくれた」と見つめられたのが先生と私とをいつまでも温く結びつけている。

三木昌先生（国語漢文）

入学早々「あはれ」の説明に長時間を費やされ、文中に感嘆詞があれば「さてともさて」とつけ加えて説明することを定められ、片言隻句もゆるがせにしない勉強。先生の造詣の深さには恐れ入ったものである。立派な口ひげ、顎ひげは当時の大学目録の広告そのま

ま。大学様と愛称させて頂いた次第である。

顔面色をなして叱責された生徒は枚挙できないが、私もその一人で徹頭徹尾たたきつけられた。先生は追いつめられても最後には或いはにっこり笑われたり、或いははっと心和睦一言を発せられたり、まことにありがたいうことであった。

当時は英語と数学とを除いては学習時間中の筆記も試験の答案も全部毛筆で墨書であった。スピードは出なかつたけれども字を書くことには自ら慣れていったものである。

長距離行軍にも登山にもご老体の先生がいつも行を共にせられ、時にはわらじばきで頑張って下さったのもまことにありがた。

長谷川清先生（数学）

入学早々後から両手でぱっと目かくしされた。その手をふりはらって仰げば長谷川先生である。生徒はそのように可愛がられたものである。嘉納治五郎先生の講演のあと実演に

あたり講堂壇上柔道着で颯爽と立ちまわられたお姿、また道場で巨躯勇ましくご指導いただいたお姿が今なお、ありありと目に浮かぶ。水泳練習の時、禪の後をつかんで観海流の手足さばきををいねいに教えてもらった。

水泳といえば飾磨のたんぼ。豆腐町駅（大正十三年廃止）からマツチ箱のような汽車ボックスであるいは自転車に乗って炎天下の飾磨街

道を。そして一杯のあめ湯を楽しみに三里五里の遠泳。おやつと言えばただ炒り豆。東北ご出身の先生は一銭をエッセンと発音され、エッセンの尊称を奉りましたが、私達はぜひ一度先生を囲んで語り合いたいものと望んでいます。

広瀬俊作先生（英語）

RとLの発音を一人一人長い時間をかけて、ていねいに教えて下さった。舌の動きが不十分な時は鉛筆を口の中へさし込んだり、口の中をのぞき込んで指導して下さった。今日発音にあまり苦労しなくてすむのはその頃の先生のおかげである。

ある年の卒業式に県知事控室の接待を受持っていたが県知事に対する広瀬先生の懇懃な態度には驚いた。知事よりはむしろ先生の方が偉いと尊敬していた私には意外であったが当時県知事とはそういうものであった。

矢作彥蔵先生（習字）

書道の基礎は矢作先生の熱心な指導に負うところが大きい。一人一人に自筆で基本筆法の手本をつくって下さったり「草聖最も難しとなす」に始まる草書練習や、展覧会出品など思い出は多い。

ある日新調純白の夏服を召して机間巡回指導をして下さった折、やんちゃ連中の合作でそのずぼんのおしりに毛筆でまん画をかき上

げてしまった。まことに悪質ないたずらで半世紀を経た今日一同深く頭を垂れて地下の先生にお詫び申しあげます。

上村隆景先生（英語）

私達の英語は上村先生によって養われたと思う。六盟館発行、広島高師付属中学内英語教授研究会著作の NEW ENGLISH READER'S III、IV、V、は一冊それぞれ五三銭六三銭、七七銭ながら今読みかえしても相当にむづかしい。力がついた筈だと思ふ。先生は前の時間の間違つた指導はかならず次の時間に訂正された。いかに熱心に指導して下さいたかはそれだけでも察せられる次第、さりながら年若い生徒の中にはまた訂正がはじまつたにたり笑う者もあつた。私が六十の手習いで英検一級や通訳案内業検定にパスできたのもこの頃の基礎があつたればこそと感謝している。その六十の手習い最中先生からたくさん英語レコードを送って頂いた。卒業後四十数年恩師からそのようなプレゼントや激励を受けるとは、そのレコードは家の宝として今なお Listening にはげんでいる。剣道の時間たくて短い独特の竹刀で九州魂のこもつたお面を頂戴するとまことに目がくらんだものである。

毎年の同窓会には生徒よりも若いお顔で奥様ご同伴でお出で頂いている。

飯田勇先生（図画）

日本画の田中豊先生のとへ美術学校ご出身の若いハンサムな先生を迎え、私のクラスが先生ご就任お初の授業を受けた。幾日か後先生のきれいなお髪はさんぎり頭へ変つた。質実剛健が当時の教育のモットーであつた。はじめて帝展にご出品になつた作品の明るい黄色が目にかぶ。地方画壇に及ぼされた影響は大きく、あちこちで立寄つた展覽會場で先生の作品に出合うとこの上ない親しみを感ずるのである。

倉敷甚一郎先生（体操）

先生が校門を入られた瞬間広い校庭の隅から隅まで生徒は雑談をやめ気をつけの姿勢で敬礼したものである。スマートなお躰であつたが眼光は鋭く、もしそれはるかに遠い片隅で敬礼を欠くものがあれば、まっすぐにその方へ歩み寄られ「なぜ敬礼をせぬか」と難詰をまぬがれることは無かつた。厳寒にたまたま手をずぼんのポケットに入れておるとびしやとたたかされたものである。放課後遅くまで残され蠟燭をともしてまでしほり上げられあまりのくやしさに泣いた学友もあり、また一方その先生を職員室のまん中ではり飛ばした豪の者もいた。体操の技はまことに軽快で大車輪の要領をこまかく教えられて感謝している者もいる。

陸軍記念日の城南練兵場における模擬戦の直前私は先生に連れられて町へいき、準士官用のサーベルを新しく買ってもらい、当日は抜刀して敵陣へおどり込んだものである。姫中の軍事教練は有名であつた。それでも練兵場で折敷の姿勢が悪く本職の軍人から笑われたこともあつた。

当時に級生に欠礼すると制裁を受けたもので汽車通学者は列車の洗面所が制裁の場所であつたとは水野俊二君の述懐。

男女の別はきびしく、路上女学生と話を交えることはなかつた。ラブレターが発覚して停学処分を受けた学友は定めし今その思い出をなつかしくしのぶことであろう。汽車通学では前方の車輛に男学生、後尾に女学生と厳然と区別されていた。

楓龍寰先生（体操）

広い練兵場の隅から隅まで号令の声の通る先生であつた。当時服装検査はきびしく服のボタン、ゲートルのボタン一つとれていものとがめられた。「何某のおちんこがずぼんの右側に入っている。左側に入れよ。」到れりつくせりの指導を受けたものである。

萩原長兵衛先生（数学）

むづかしい数学もユーモアたっぷりの先生の指導を受けては毎時笑いを禁ずることができなかつた。実に頭のよい巧みな教授法をと

られたものである。独特の笑みと手振りで「……そこで最後にこの軌跡をふりまわしたら良いんだ。」爆笑、といった具合であった。

同窓会にもよくお出で頂いた。晩年深く仏法に帰依され、その尊い随筆集も頂いた。大往生をとげられた時、姫路駅からタクシーで急ぎ馳せつけ、れんげ花咲く野路をくさくさの思い出にふけりつつ増田健二君とともに冥霊をお送り申しあげた。須磨公園で桜の花びらを浴びながら共に杯を重ねた二十三才の頃がついにこの間のように思われて「散り舞へる花びら浮べ盃交す術はなし けふみひつぎの前」

柴高半助先生（体操）

若い時にはいずこも同じ、夏目漱石「坊ちゃん」にあるような一こま。先生が寄宿舎々監になられた第一宿直日、午前二時を期して一斉ス टीमを決行した。けだしご就任早々の先生のど肝を抜いておこうというのがねらいであった。バケツをたたき大声で歌い下駄ばきで廊下をかけたまわったものである。突如起った騒ぎに先生はびっくり仰天さては一大暴動突発と感ちがいさされてか軍刀を片手に飛び出して来られ大声で「コラーッ 静まらんか 静まらんとブチ殺すぞ」と気狂いの様に走りまわられたとは竹田直君の述懐。

寄宿舎国士寮生には思い出も多い。金山の川へこっそり石灰をぶち込んでたくさんのなまずをいけどり、炊事の飯塚さんに料理してもらって舌鼓を打ったのは良かったが、瀬戸直吉先生にひどく叱られた。なまずをたべてなぜ瀬戸先生に叱られたかのいま一つのいきさつは白城会員諸君の想像におまかせする。寮の年中行事としては第一学期には上記金山の川の雑魚とり、第二学期には飾磨または室津で鯛月会・赤穂義士祭、第三学期には卒業生を送る仮装万才喜劇大会など荒木恭太君の思い出。

瀬戸直吉先生（数学）

当時卒業式のとで卒業生と在校生との交歓の席上、卒業生「帽子片手にみなさんさーば……」在校生「技は折るまい折らせもすまい……」と歌いたがったものである。ある時の卒業式、勢いよく帽子片手に…… が始まった瞬間瀬戸直吉先生が突如立って「やめーっ、やめんかーっ」と色をなして大喝。あまりのはげしさに腰を折られた卒業生残念ながら歌は途中で消えてしまった。何と言っても当時の生徒は先生に対してすなおであった。先生は百才近くまで長命された。早原栄一君が代表で先生の病床をお見舞い申しあげた。

オウエン ウオーカー先生（英会話）

テキストを主とせずもっぱら Oval Method による練習であった。美しい夫人が学習ぶりを参観されたこともある。一言ずつ一斉に先生のまねをして練習がつづいていたが、ある時生徒の発音が悪く、……What? と尋ねられた。それとは気のつかぬ一同、一斉に大声で、……What? と平気でくり返したものである。その時の夫人の笑いこけようが今なおお目にうかがふ。そこではじめて気がついた一同爆笑また爆笑、



五年間に亘る恩師はまだ外にたくさんいらっしゃる。しかし紙面もつきたので一同心からなるお礼を申しあげて筆をおくこととする。今当時の通信簿を開き担任先生の捺印を見て、なつかしさが一度にこみ上げてくるのである。入学当初二〇〇名いた学友は今七五名である。元気な者が先にたおれ病弱であった者が却って長命しているように思われる。互にいたわり合はげまし合って来る年も来る年も恩師をかこんで同窓会をつづけたいものである。

この稿は昭和四十三年五月末名古屋で開いた同窓会の席上でまとめたものである。文責は筆者にあり、恩師に対し失礼な筆を進めましたことを深くお詫び申しあげます。



母校の思い出

四十回卒 長谷川隆吉

私が母校の思い出を書く段になると、自然二つの部分に分けざるを得ない。

その一つは、姫中四十回生としての在学中のことであり、もう一つは、昭和二十三年六月末、姫中と県女とが折半交流した（命により、職員も生徒も物もま二つに分けて二校をつくった）折、その交流委員を勤め、県女から半数の女生徒をつれて母校の先生として来任した当時のことである。

まず昭和の初の生徒時代のことをふり返ってみる。この時一番に思い出されるのは、やはり入試のことである。と言うのはそれまで国語、数学だった入試科目（作文もあった）に私たちの時から新たに理科・社会などが加わり、志願者も学区などの制限はなく定員の二倍半以上もあって、田舎の小学校からき私などばかりびくびくしたからである。

一番目には私たちが二年生の時、質実剛健を校風とする母校が軍事教練では全国一の中学校であるとの折紙がつけられ、陸軍省によって映画に撮影されたことである。（この時

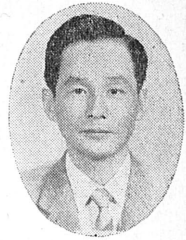
の記念写真帳は今も持っている。）

それからもう一つは、五年生の時創立五十周年の記念行事が催され、職員生徒そろって市内を提灯行列してまわったことである。この時市内行進の時の持物や在り方などのことについて生徒側の要望が満たされず、そのため先生方といろいろ折衝、今日いうところの対話を積極的に行ったことなども今ではなつかしい思い出である。なお、当時の校長は、故横田宗直先生、先生は禪家のお出で、生徒と同じく丸坊主、詰襟服（夏は白、冬は黒）で通され、校内を巡視しておられる先生を外来者などはよく小使さんとまぢがえたとか。古武士の風格のある先生の多かった当時の姫中職員の中でもとくに異色ある存在であった。

次は、いよいよ折半交流の時のことであるが、これは母校の歴史に於て画期的な出来事として、男生徒ばかりだった姫中校舎に約半数の女生徒を迎え、男女共学が実現し、校名も兵庫県立姫路西高等学校と改まり、校章、服装も新たに制定されることになったのである。（現

校章の構図は、「高」の文字の下に飛躍の意をこめた飛ぶ鷹の姿に「西」の英語の頭文字「W」を通わせた形を配したものである。そして、今までの伝統ある校章は、三十八回卒の苜野秀雄氏が初代校長になられた校区内の市立広嶺中学校の校章として現在うけつがれている。）時の校長は飯野竹二郎先生。この変動期に万事によく配慮され、設備の充実、職員生徒の和をはかり、一方同窓会、育友会との連携も密にし、その年の十一月四日には西高開校記念をかねて創立七十周年の記念行事をも行ない、今日見る西高発展への基礎を築かれた。それから賀集、竹浪、小島、井内の諸校長を経て現、林校長に至るまでここに二十年、母校は内容外観ともに発展の一路をたどり、「姫路に西高あり」と天下に名をなしてきた。今や時勢は目まぐるしく変動している。そして教育制度もかわり、かつての名門校にして昔日の面影を失っているものもある中でわが母校の伝統は、現在の西高の校訓（井内校長時代に制定）一、質実剛健（たくましい心身の錬成）二、自主創造（ゆたかな個性の伸長）三、友愛協調（うるおいある人間性の涵養）の中に脈々と伝わり、新しい息吹きで躍進をつづけている。

思えば当時の職員にして今なお母校に職を奉じている者、姫中時代からは名倉、真下の面教師に空地義校長、県女時代からは、私と事務の黒塚主事の計五名のみ。ああ、感無量！



五十七期の場合

五十七回卒 内山 孝一

私たちが、あこがれの姫中に入学を許可されたのは、昭和十六年四月のことでした。

当時、中国全土に拡大されていた戦局は、全く膠着状態におちいり、その上、太平洋方面では、いはゆるABC Dの包囲網が、漸次効果をあらはして、庶民の日常生活を窮屈なものにしていきました。

国民学校から中学校へあがるのに学科試験も受けず、その代りに、内申書と口答試験と体力テストだけで入学してきた私たちは上の命令に柔順な、優等生タイプが多くて、覇気にとぼしかったのも無理はありません。さていよ／＼入学はしたものの、支給された制服・制帽を見て、がっかりしたものです。姫中にあこがれた大きな理由の一つであった、例の白ゲートルも、夏の白服、冬の黒服も廃止されて、上から下まで国防色に統一された、スフのペラ／＼の国民服が支給されたのです。

そのペラペラズボンの左右についたポケッ

トすら、冬に手を入れさせぬようにと、ぬい合わすよう強要された——それほど、ちくくさくおぞましい、ヒステリックな四年間が私たちを待ちうけていようとは、入学に胸ふくらませた私達の誰もが予想しなかった事でした。

入学して半年あまり経た十二月、わが国は日米戦争に突入しました。学生も、その頃から、ます／＼軍隊式になって、登下校時にも、隊伍を組んで足なみそろえて通うことになりました。配属将校とか、その他軍人あがりの連中の専横が目だつようになり、遂には、校長ですら、彼らの非道を制しきれないほどの状態になりました。現代が「理由なき反抗」の時代とすれば、当時は「理不尽な圧制」の時代でした。ごく些細なことでも、い／＼がかりをつけられて、立たされたり、なぐられたりするのでした。私など、ごく目立たぬチビで、彼らにさほど「にらまれて」「いた方ではないのですがその私ですら、「いっ。そ一

思いに、配属将校のしわ腹を銃剣でひと突きに」と思ったことが一度ではありません。

彼らは、軍隊生活をそのまま学園に持ち込んで、年端もゆかぬ少年を虐待した変質者でした。一つだけ例をあげさせて下さい。

武道——これは当時正課に入っていました。——の時間でした。始業のベルがなって、先生が来られるまで、私たちは柔道場のたゞみに、正座して待っていました。すると、外を通りかゝつた配属将校が、いきなり長靴のまゝ、たゞみの上におどり込み、一人の生徒をひきづり出し、こぶしでなぐり始めたのです。何でも、この生徒が彼の方を見て笑ったというのです。生徒はなぐられ、よろめきながら広い道場を一周し、軍人は、土足のまゝ、なぐりつづけて道場を一周しました。もとの席に帰った生徒の顔は血まみれで、七十何発の鉄拳の戦果をまぎ／＼と物語っていました。

二人が道場の一周をおわる前に、柔道の先生もこられて、腕を組んで見ておられました。「道場の神聖を、土足で汚した軍人に対して、何も文句をつけないのか」と、私たちは多少の期待をこめて、柔道七段のたくましい体格を見ていたのですが、それは過大な注文であったようです。

「中学時代は、なぐられて、しぼられたは

かりで、楽しい思い出など一つもない。これが私たちの期の誰もが持っている、いつわらぬ感慨ではないでしょうか。

学校の内では、校庭も含めて、夏冬を問わず、ハダシを強いられたのも辛い思い出です。冬のハダシの寒かったこと。身体が足の方から冷え上ってきて、こわい先生の時間など、寒さとこわさで一時間中、ふるいがとまらなかつたものです。休憩時間の便所通いは、絶対欠かせぬ行事でした。あの満員の半ぬれの便所の石を、ハダシで踏みつける時の気色の悪いこと。それは、マクベス夫人の手から落ちないタンカン王の血のりと同じく、後からいくら洗ってもどうにもならない不潔感を残すのでした。

学校のきまつた行事としては、一万米競走、夜行軍、査閲、分団対抗競技などがあって、それぞれ思い出もあるのですが、今思ひだしても一向生彩に乏しいのはどうしたわけでしょうか。当時の風潮が、できるだけ、個性の発芽をおさえて、集団の中に埋没させようという行き方であったためかも知れませう。

土のうをかついで走るとき、小さな穴をあけて砂がこぼれるよう工夫したり、勤勞奉仕の見廻りに来られた先生の（それもおとなしい方だけの）自転車空気を抜いたり弁当に

フケを落しておく位が、せめてもの抵抗でありました。

戦局が悪化して、日本の上空に敵機が姿を見せ出すと、男山の上の監視哨や警察署にも派遣されることになりました。

三年生になると、戦局はますます逼迫し、いよ／＼工場へ駆出されることになりました。

私たち五十七期は、三菱電気（千代田町）と浅田化学（飾磨）にわかれしました。

工場に行つてよかつたのは、ともかく配属将校達の圧制から遠ざかつたこと、軍需工場の特配で、一通りの「めし」にありつたことでしょう。もっとも、みそ汁のみにたくあんが入っていたこともありましたが。工場では、養成工とか、女子挺身隊、女学生も一緒に、いろいろな経験をしたものです。タバコはもとより、異性問題はことのほかうるさく、みつかれば、ひどいおしおきを覚悟しなければなりません。それでも——いやそのスリルの故にといふべきでしょうか——非合法活動？ は、ひそかに行なわれていたようです。

流れ作業の関係で、仕事のきれ目ができたときでも、工場内で書物をひろげるとは禁止されていきましたので、無聊に苦しむこともありました。

伸び盛りで吸収力の強いこの時期に、食べ

る物も充分なく、おまけに精神のかたえ取り上げられた私たちは、戦争そのものを批判するには、まだ未熟であり、まったくその日暮しに、毎日を生きていきました。上級学校へ進学するにも、内申書の評価一つで、左右されるのですから、公然と上に反抗することは、進学をあきらめることに直結してしまいました。

私たちは、異例に、中学を四年で卒業させてもらい、昭和二十年四月上級学校へ籍を移されましたが、実質は、前と同じ工場に、同じように通っていました。

破局は意外に速くおとづれ、六月の川西空襲、七月の姫路焼燬、つゞいて八月の終戦となりしました。

そんなわけで、私たちは中学四年の生活を、大東亜戦の消長と共に暮したのでした。私たちは、直接戦斗による死傷者こそ出していませんが、中学生生活に限っていえば、最大の被害者であったと、自負？ しております。

終戦後、二十数年がすぎた今、すべてを過去の悪夢として、水に流すべきでしょう。また、我々の真の加害者が誰であったのかも、明かではありません。しかし、当時をふりかえりますと、未だに胸中が憤激でにえたぎるのを、おさえ難いのも事実なのです。

支部だより

〔東京支部〕

- (1) 年々歳々東京支部会員は増加し、現在一、〇〇〇名に達した模様です。
- (2) 支部総会は毎年春または秋に一回ないし二回開催し、往年の永田時代（六期・元東京市長・拓相・故永田秀次郎氏）の盛大さを再現している。
- (3) 約一、〇〇〇名の会員中には政治、経済法律、行政、文化等各界に於て傑出した人材が活躍して居り、名門母校の歴史に輝を添えている。
- (4) 四十二年度支部総会は四十二年五月二十六日、新橋駅前ビル大ホールで開催した。出席者八十数名、呼べよ天下の白鷺城、に始まり、鷺山に秋の夜はふけて、まで盆を重ねながら青春の思い出と、将来の抱負を語り合い、洵に盛会であった。
- (5) 本年度総会には支部長、幹事の任期満了に伴う改選および顧問の補充（十一期故沼義雄氏、十二期故清瀬一郎氏、十三期故多田久三郎氏）を行う予定開催期日は十月中旬の予定。

（東京白城会常任幹事 足立良平 36回）

〔大阪支部〕

大阪支部第四回総会は青葉薫の六月十四日大阪市梅田阪急百貨店八階特別食堂にて五時半から開かれ、母校より林義一校長先生、長谷川隆吉先生はじめ、恩師栗田、菅沼、藤井の各先生方をお迎えして、会員約八十名の出席をえた。会則改正、新理事十八名の選任、新支部長に早原栄一氏を選出したが、旧支部長村田広舜氏の業績を讃え、今後顧問として同会の発展に御協力願うこととなった。新支部長早原氏は大阪市内屈指の予備校たる天王寺予備校の校長として斯界の重鎮であり、過去三年間副支部長として本会の為め尽された功績は大きく、将来に期待されることも大きい。新副支部長は品川克己氏（電気工商株式会社取締役）、総務は長尾悟氏（弁護士）会計は中尾浩一氏（京阪神急行電鉄株式会社文書係長）にそれぞれ決定し披露された。

このあと林校長先生、長谷川先生のごあいさつ、三十六回石川準吉氏、二十七回田村千代一氏、のスピーチ、男女共学第一号で結ばれた西高二回の柳川正邦、同秀子夫妻のユーモアを交えたスピーチがあった。同氏は現在毎日テレビプロデューサーをしているので次回は有名タレントを伴ってくるとの約束であった。

八時ごろに校歌を唱和し、林先生の万才三唱で散会した。

なおこの大阪支部は毎年六月の第二金曜日
に総会を開きますので多数会員のご参加をお
まちしています。

（大阪支部総務理事 長尾 悟 西2回）

〔京都支部〕

京都支部現況

会 長 京大文教授 井上智勇（36回卒）
幹事係 同志社高校長 高橋勘（44回卒）

特別会員（旧職員） 二名

姫路中学卒業生 七一名

姫路西高卒業生 三〇五名

合計 三七八名

総 会

昭和四十二年度 幹事の都合で開催せず。

昭和四十三年度 総会懇親会

六月二十九日（土）十七時～二十時

京都中京四条南 前カモガワビル八階

青雲樓（中国料理）

会 費 社会人 一、五〇〇円

学 生 一、〇〇〇円

母校の校長先生、会長様を初め先生方数名
出席予定、振って御出席下さい。

〔白城会神戸支部・姫中阪神クラブ〕

終戦後間もなく神戸、阪神間に在任又は在勤する姫路中学卒業生で姫中阪神クラブを作ってから二十年を迎えた。その数は約六百人で実業家、大学教授、公務員、銀行員、商社マンなどあらゆる層を網羅し、神戸にある多くの同窓会から抜きん出た存在でその活動も毎月定例の「ひるめし会」を開くなど活発に続けてきた。しかし本会が姫中阪神クラブを母体に育ってきた関係で未だ姫路西高卒業生の会員がすくなく活動が固定的になるきらいがあるので、ここ二三年前から名実ともに白城会神戸支部たらしむべく西高卒業生の加入を呼びかけている。

昨年は総会を計画したところ開催日直前に神戸大水害があったが、それにもかかわらず約六十人の参集をえて神戸パウリスタで盛大に行なうことができた。その際京都支部など他支部からもお越しをいただいた。今後は他支部とも積極的に交歓をはかりたいと思つてゐる。

なお、多年中央官界で活躍された石川準吉氏(36回)が神戸の外資埠頭公団の監事に就任され神戸に勤められることとなった。これもまた本会の発展の大きな推進力をえたものと喜んでゐる。

(驚沢 衛也 58回卒)

〔兵庫県庁白城会〕

多年会長をしていたいた吉田豊信氏が姫路市長に就任されたため現在では新会長居村茂徳(39回西宮保健所長)副会長、戸谷松司(50回土木部河川課長)を中心に三十数人の会員は、いずれもそれぞれの部局で頑張っています。かつては、故谷本利夫氏(35回副知事)を筆頭に会員はその多くが県の主脳部で占められていましたが、いまは一時の過渡期とも云うべくそれだけに将来が期待されます。

昨年の地方選挙で県議員に当選された門脇政夫(40回)、八木貫吾(45回)、清元功章(57回)の三氏を新しく会員にお迎えすることができましたし、ここ一年間には比較的多くの昇格者もできました。

どうぞ県庁にご用の方は、どしどし会員を訪ねてきて下さい。

(驚沢 衛也 58回卒)

〔姫路市役所白城会〕

一、昭和四十二年年度総会開催

昭和四十二年十月二十七日

於 山陽百貨店

二、昭和四十三年年度総会開催

昭和四十三年六月十六日

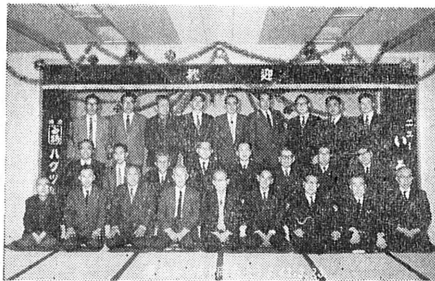
山陰海岸めぐりを兼ね湯村温泉にて総会開催

(幹事長 中野 信一 39回)

〔鹿 松 会〕

加古川、高砂地区の姫路中学卒業生で鹿松会を作っています。(加古↓鹿児↑鹿だそうです)

当地区在住または勤務しておられる方となっております。毎年一回姫中会を行っていますが、一年毎に加古川当番、高砂当番交互に受持ち。毎回



三十〜五十名位参加され、年輩の方、若年者入り混って和氣あい盛況です。此の会合を楽しみにされ毎年皆勤の方も多く、早くやれ早くやれと大勢の方

より催促されます。

本年は加古川当番で三月二十三日、加古川ニューいろはで行われ、二十七名参加されました(幹事の不幸際に少し人数は減りましたが)写真はその時の記念写真で、最前列中央の目かねかけた方が会長の松本佐一郎さんです。

(釜 谷 進 59回)

声



本部への要望……

- 1、卒業生が母校へ引きつけられるような企画をしてほしい。
- 2、新支店結成へ積極的動き、支部毎の連けいも密にするようお互いに心がけてほしい。
- 3、会員の母校や本部への期待、要望などについてのアンケートめいたものをつのつてはどうか。

以上は去る六月の大阪支部総会に出席された三十六回卒の石川準吉氏のスピーチ中からとりあげさせていただきます。

今後ともこのような声をお待ちします。

(本部長理事代表 長谷川隆吉記)

会員消息

永い間、神戸銀行に勤めていましたが、昨年五月に専務を退き相談役となり、唯今では阪神相互銀行の取締役会長として老骨に鞭打っています。去る五月二十五、六日の両日に亘り、三十一回のお面々二十六名は栗田、上村両先生のお伴をして名古屋、岐阜の観光旅行を楽しみました。来年は我々の卒業五十周年に当りますので母校の地、姫路で盛大なる同窓会を催し度いと皆々語り合った事でした。

(三十一回卒 日下英男)

グラウンド完成

体育活動いよいよ活発

かねがね宿願の、旧姫中校舎跡を整理して各種球技場を設置する夢が、前校長井内喜久次先生、前教頭三浦佳文先生の絶大なご努力によって遂に実現いたしました。

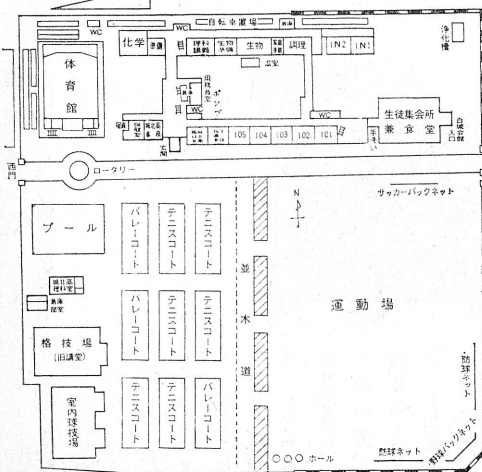
昨年の冬に、旧講堂東に亭々と聳えていた雌雄の銀杏、旧寄宿舎南のクロガネモチの巨木、旧まかない西の松など姫中卒業生にとって思い出多いこれら四本の木を根巻きして、今春早々に新校舎南本館の玄関前に移植しました。それそれかなりの老木で、はたして活着するかどうか、話題をふりまいては活

が、井内校長・三浦教頭の執着の鬼気に押されて全部無事に新芽をふき、青々たる若葉を夏の風にそよがせています。

旧講堂・旧剣道場はそれぞれ校地西南隅に牽き移されて、外観は昔日の面影をとどめつつ、内部の改築改装を施されて、旧講堂は武道場に、旧剣道場は室内球技場として立派に生まれ変わり、西高生の身心鍛練の場として将来も末長く生き続けることになりました。

旧校舎跡はブルドーザーによって整地され、「校舎配置図」に見られるようテニスコート6面、バレーコート3面を優に擁して、外観・内容ともに県下に誇るすばらしいグラウンドとなりました。東半分は旧姫中時代からの運動場と新設の球技コートとの地表は落差五〇cm、境界斜面は芝生のグリーンベルトが南北に走り、それに沿ってマロニエの並木道が走って将来は濃い緑蔭を投げかけることに

校舎配置図



なりましょう。

マロニエ花咲けどいとしの君いずこ、とロマンチックな歌の一節も流れ出るような柔らかなみも用意されているようです。(マロニエの並木道は井内校長の独創による)

あとは、西門横に設置予定のプールを残すのみ。これも林新校長の奔走で、すでに着工、八月頃完成の予定です。

それについても思い出すのは、三浦前教頭が離任式において西高生に残された「まっ黒な秀才たれ」の一言です。よき施設を西高生自体が自分のものにしきって、勉学のみならず体育面でも十分な修練と成果をあげ、文字通り「まっ黒な秀才」として社会に貢献していくことこそ、今後の西高教育の指標であり、先輩の高恩に報いる道だと信じます。職員・生徒ともども頑張りたいと思います。

「会費」納入についてのお願い

現在本会の一般会計は、従来よりの積立金と、母校姫路西高校在校生が月々納入している入会金をもって維持されてきており、同窓の本会員からは会費をいただいております。ところが、白城会通信の印刷、郵送料をはじめ諸費値上りのため、既報の通り昭和四十二年度から西高十六回卒以上の会員各位からは **年額 百円** の会費をいただくことになりました。納入の方法は、毎年納入していただくめんどろを省くため、一応三ヶ年分をまとめて、**金三百円** ずつ、三年毎に納入していただくようにしております。すでに納入いただいた方も多数ありますが、未だのお方は何かと出費ご多端の折、まことに恐縮ですが、事情ご了承の上、本会の発展、充実のため納入していただきますよう切にお願いいたします。同封の振替用紙でご送金願えれば幸です。

なお、六月二十日現在の各回期別納入状況は下記のとおりです。

白城会会員各位殿

白城会本部

白城会会費回期別納入状況 (43年6月30日現在)							
回 期	納入人数	回 期	納入人数	回 期	納入人数	回 期	納入人数
姫中 1		2 2	3	4 3	2 0	西 3	4 8
2		2 3	9	4 4	2 6	併62 2	8
3		2 4	5	4 5	2 5	西 4	2 6
4		2 5	3	4 6	3 1	5	3 4
5		2 6	6	4 7	1 9	6	3 0
6		2 7	6	4 8	2 3	7	3 4
7	1	2 8	7	4 9	1 8	8	3 6
8	1	2 9	1 2	5 0	1 8	9	3 8
9		3 0	1 2	5 1	8	1 0	3 4
1 0		3 1	1 5	5 2	1 5	1 1	2 8
1 1		3 2	1 6	5 3	2 4	1 2	4 9
1 2		3 3	1 8	5 4	1 8	1 3	3 7
1 3	4	3 4	1 1	5 5	3 5	1 4	4 0
1 4		3 5	1 5	5 6	2 3	1 5	4 6
1 5	4	3 6	1 3	5 7	2 7	1 6	8
1 6	2	3 7	1 4	5 8	7 4	1 7	7
1 7	3	3 8	3 5	5 9	3 5	1 8	1 4
1 8	3	3 9	1 3	西 1	5	1 9	2 5
1 9		4 0	2 4	姫中 60	2 2		
2 0	4	4 1	2 2	西 2	2 0		
						計	1 3 4 5

本年度

白城会総会のご案内

昭和四十三年度総会を左記の通り行ないますから特別会員（旧職員）も会員各位もお誘い合せの上多数ご参加下さいませようお願いします。

なお準備の都合もありますので本通信折込の葉書を利用して八月五日までにご連絡下さい。

記

日時 八月十八日（日）

受付開始 午後三時より

総会 午後四時～六時

（時間厳守）

場所 白城会館 三階

会費 七〇〇円

但し 西高十七回生～二十回生（昭和四十年三月卒業生）本年三月卒業生）は四〇〇円

総会次第

理事長・学校長あいさつ、会務会計報告、理事変更並に補充、講演交渉中、記念撮影、宴会。

現住所連絡のお願い

毎年数多くの白城会通信が住所変更等のため返送されています。

本年七月より実施されています郵便番号制を機に会員各位の住所録を整理したいと思えます。折込はがきに、白城会総会の返事とともに必要事項ご記入の上、ぜひ御返送下さるようお願いいたします。

なお通信欄に近況をお記し下されば幸いです。

白城会名簿

値下げ断行

白城会名簿を三〇〇円・送料九〇円に値下げしました。一昨年発行しました名簿が未だかなり在庫しておりまして、なげなしの経理を圧迫しています。赤字軽減のために思い切って値下げしましたから、まだお持ちでない方はぜひお求め下さい。

なおご注文の際には、名簿入用と御明記下さい。会費と混同する心配がありますので念のため。

編集を終えて

お粗末ながら、やっとできました。第五号は「創立九十周年記念号」として編集することに理事会で決定。最初は「あれもやろう」「これも載せよう」と夢を九十年の昔に馳せたのですが、あれやこれやで袋小路、馳せの家永氏と、秤の目盛りを血走った眼で凝視し、嘆息し、「こりやあかん。三瓦増えても送料三十五円。また西岡先生おかんむりです。」などとぼやきながら、遂にアート紙六頁分、写真も金の許すところまで、めめて三十四頁の「創立九十周年記念号」が生まれ出た次第です。

幸いなことに、姫中七回・八回の大先輩をはじめとして、それぞれの先輩から昔なつかしい貴重な懐旧談をお寄せいただきました。原稿を読みながら、思わず吹き出したり、じんと胸をつまらせたりして、時の経つのもしばし忘れることがあります。ご寄稿下さいました先輩各位に紙上を借りて厚くお礼申し上げます。（稿記）

昭和43年7月

題字は 空地純一氏

白城会本部

姫路市伊伝居678

（郵便番号670）

姫路西高等学校内

理事長 一 吉 康 文
空 地 純
編集人 長 谷 隆
義 善
橋 本 永

印刷所

黒田印刷株式会社
姫路市千代田町823